

平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
長野県の結果

長野県教育委員会

目 次

I	全国学力・学習状況調査の実施状況	1
II	全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題	2
1	教科に関する調査の結果と分析	2
(1)	平成 31 年度（令和元年度）教科に関する調査の結果と分析	
(2)	これまで（平成 19 年度～平成 31 年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析	
(3)	過去 6 回（平成 26 年度～平成 31 年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析	
(4)	過去 5 回（平成 27 年度～平成 31 年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析	
2	質問紙調査の結果と分析	15
(1)	平成 31 年度（令和元年度）質問紙調査の結果と分析	
(2)	過去 5 回（平成 27 年度～平成 31 年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析	
III	全国の分析との比較	22
1	教科に関する調査結果	23
2	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	26
3	教科に関する質問紙調査の状況 国語	29
4	教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学	31
5	教科に関する質問紙調査の状況 英語	33
6	児童生徒の自己肯定感等に関する状況	38
7	ICT を利用した学習状況	40
8	地域や社会と学校の連携・協働に関する状況	41

I 全国学力・学習状況調査の実施状況

1 実施日 平成31年4月18日（木）

2 対象学年 小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

3 調査事項及び手法

（1）児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（国語，算数・数学，英語^{※3}）はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」^{※1}と「主として『活用』に関する問題」^{※2}を一体的に問う問題を出題した。

※1 主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

※2 主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

※3 英語については，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」，「書くこと」に関する問題を出題し，「話すこと」に関する解答は，原則として口述式によるものとした。

② 質問紙調査は，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査を実施した。

（2）学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施した。

4 平成31年4月18日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	生徒数
長野県（公立）	365 校	17,649 人	189 校	16,440 人
全 国（公立）	19,263 校	1,028,203 人	9,513 校	938,888 人

※調査を実施した児童生徒数は，回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題，質問紙調査問題，全国状況などは，国立教育政策研究所のホームページ（<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>）を参照のこと。

Ⅱ 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

1 教科に関する調査の結果と分析

(1) 平成 31 年度（令和元年度）教科に関する調査の結果と分析

① 小学校の平均正答率・平均正答数，正答数分布と分析

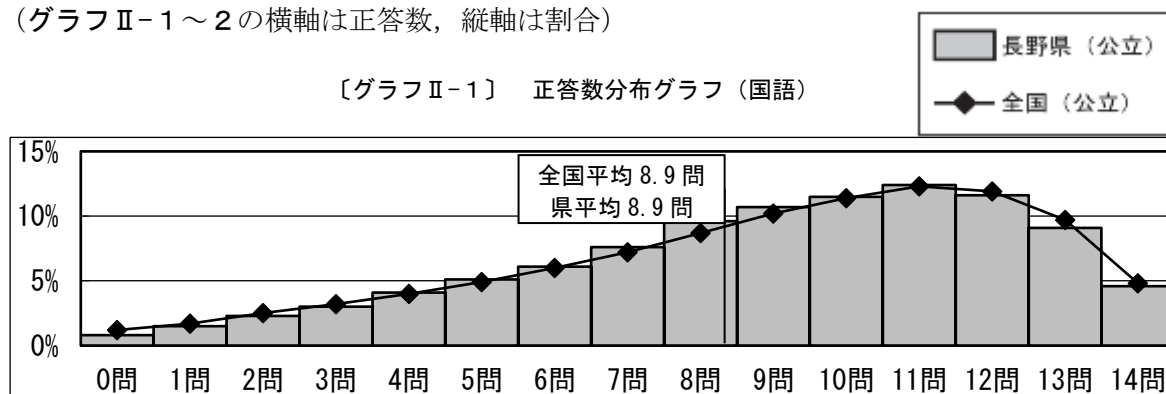
i) 平均正答率・平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ-1〕 教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（小学校）

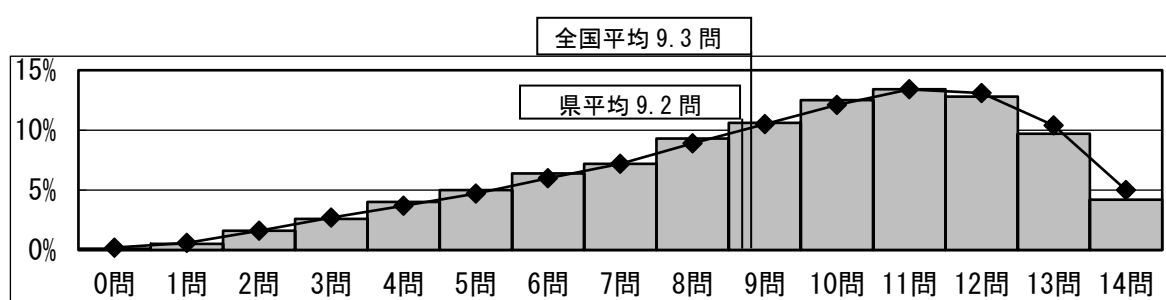
科目	区 分	平均正答率（％）	平均正答数／全問数（問）
国語	長野県（公立）	64	8.9／14
	全 国（公立）	63.8	8.9／14
算数	長野県（公立）	66	9.2／14
	全 国（公立）	66.6	9.3／14

（グラフⅡ-1～2の横軸は正答数，縦軸は割合）

〔グラフⅡ-1〕 正答数分布グラフ（国語）



〔グラフⅡ-2〕 正答数分布グラフ（算数）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の平均正答数は全国と同じである。（表Ⅱ-1）

◇国語と算数の正答数分布は全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-1，2）

◆算数の平均正答数は、全国の平均正答数を0.1ポイント下回った。（表Ⅱ-1）

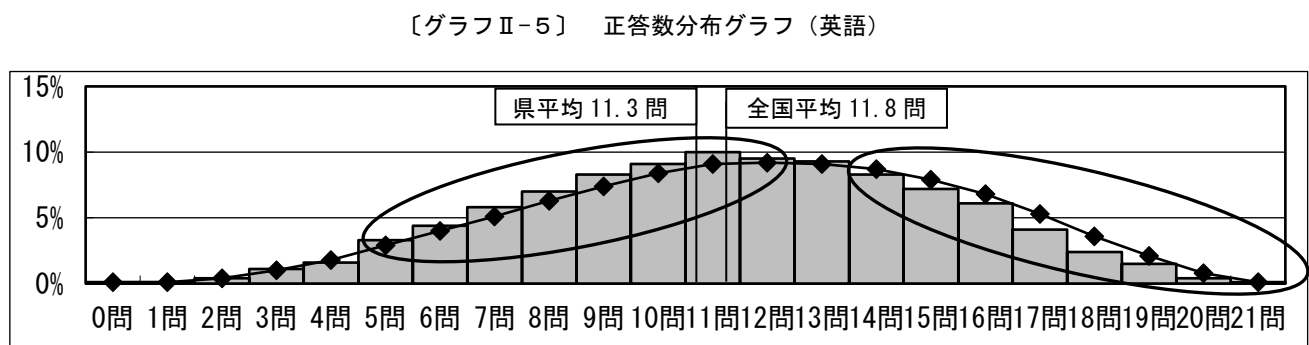
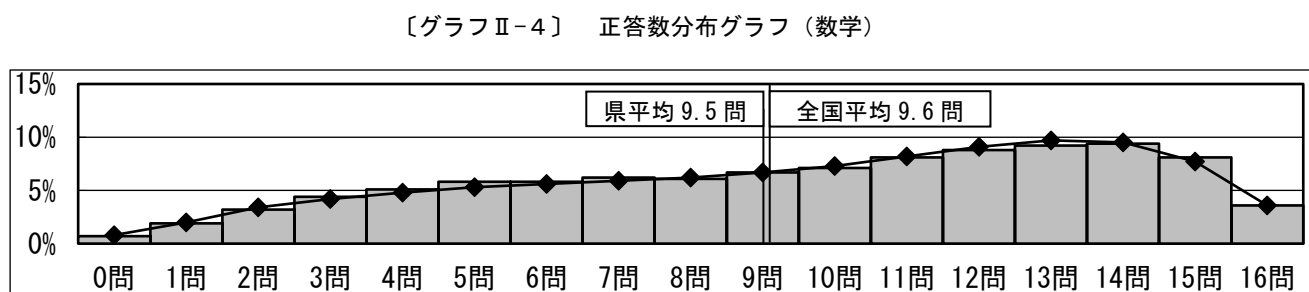
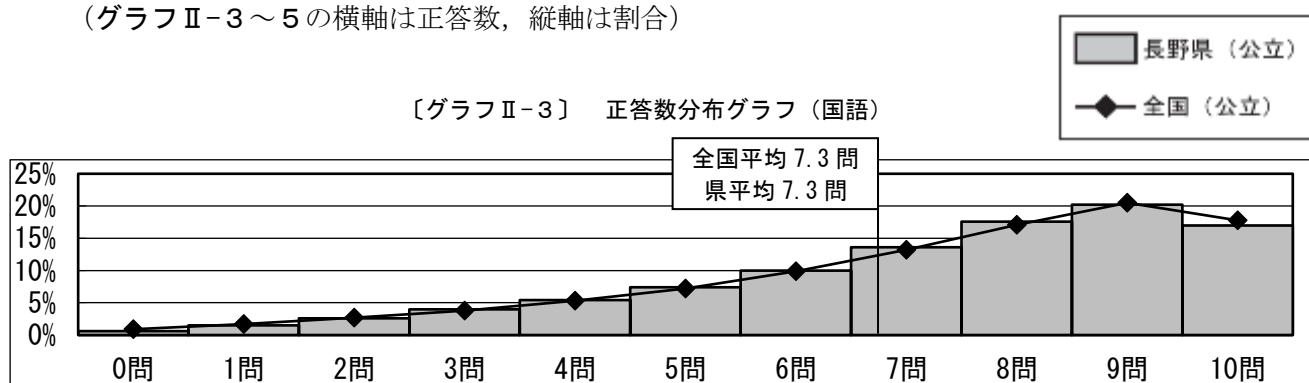
② 中学校の平均正答率・平均正答数，正答数分布と分析

i) 平均正答率・平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（中学校）

科目	区 分	平均正答率（％）	平均正答数／全問数（問）
国語	長野県（公立）	73	7.3／10
	全 国（公立）	72.8	7.3／10
数学	長野県（公立）	60	9.5／16
	全 国（公立）	59.8	9.6／16
英語	長野県（公立）	54	11.3／21
	全 国（公立）	56.0	11.8／21

（グラフⅡ-3～5の横軸は正答数，縦軸は割合）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の平均正答数は，全国と同じである。（表Ⅱ-2）

◇国語，数学の正答数分布は全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-3，4）

◆英語では，正答数が5問から12問の生徒の割合が全国よりも高く，14問以上の生徒の割合が全国よりも低い。（グラフⅡ-5）

(2) これまで(平成19年度～平成31年度(令和元年度))の調査結果の経年変化と分析

① 小学校の経年変化(平均正答率)と分析

i) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化(小学校)

		H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22* (抽出)	H24* (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)		R1 (悉皆)
国 語 A	県 (公立)	82	67	70	83～ 85	82～ 83	64	73	70	74	75	72	国 語	64
	全国 (公立)	82	65	70	83～ 84	81～ 82	63	73	70	73	75	71		64
	全国との差	0	+2	0			+1	0	0	+1	0	+1		0
国 語 B	県 (公立)	63	51	51	78～ 80	55～ 57	50	57	66	59	57	55		
	全国 (公立)	62	51	51	78	55～ 56	49	56	65	58	58	55		
	全国との差	+1	0	0			+1	+1	+1	+1	-1	0		
算 数 A	県 (公立)	84	72	80	73～ 75	72～ 74	78	79	75	77	78	62	算 数	66
	全国 (公立)	82	72	79	74	73～ 74	77	78	75	78	79	64		67
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	-1	-1	-2		-1
算 数 B	県 (公立)	64	51	54	48～ 49	58～ 60	60	59	45	47	46	50		
	全国 (公立)	64	52	55	49～ 50	59	58	58	45	47	46	52		
	全国との差	0	-1	-1			+2	+1	0	0	0	-2		
理 科	県 (公立)					60～ 62			61			61		
	全国 (公立)					61			61			60		
	全国との差								0			+1		

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「○～○」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

平成25年度調査からの7年間において、次のことが分かる。

◇国語は、平成29年度に全国の平均正答率との差が-1となったものの、今年度は昨年度に引き続き0である。(表Ⅱ-3)

◇算数の全国平均正答率との差は、前回は-2であったが今回は-1である。(表Ⅱ-3)

◆算数は、平成25年度は全国平均正答率との差が+2であったのが、平成26年度は+1、平成27年度から平成29年度は0となり、今年度は-1である。(表Ⅱ-3)

② 中学校の経年変化（平均正答率）と分析

i) 平均正答率

〔表Ⅱ-4〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（中学校）

		H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22※ (抽出)	H24※ (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)		R1 (悉皆)
国 語 A	県 (公立)	84	74	78	74～ 75	76～ 77	77	80	76	76	78	76	国 語	73
	全国 (公立)	82	74	77	75	75	76	79	76	76	77	76		73
	全国との差	+ 2	0	+ 1			+ 1	+ 1	0	0	+ 1	0		0
国 語 B	県 (公立)	73	61	75	63～ 65	63～ 65	66	49	65	66	72	61	数 学	
	全国 (公立)	72	61	75	65～ 66	63	67	51	66	67	72	61		
	全国との差	+ 1	0	0			- 1	- 2	- 1	- 1	0	0		
数 学 A	県 (公立)	73	63	63	61～ 64	61～ 64	62	67	64	61	64	65	数 学	60
	全国 (公立)	72	63	63	64～ 65	62	64	67	64	62	65	66		60
	全国との差	+ 1	0	0			- 2	0	0	- 1	- 1	- 1		0
数 学 B	県 (公立)	62	50	57	40～ 43	47～ 50	40	58	41	44	48	46	数 学	
	全国 (公立)	61	49	57	43～ 44	49～ 50	42	60	42	44	48	47		
	全国との差	+ 1	+ 1	0			- 2	- 2	- 1	0	0	- 1		
理 科	県 (公立)					50～ 52			53			66	英 語	54
	全国 (公立)					51			53			66		56
	全国との差								0			0		- 2

※H22 年度、H24 年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が 95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国（公立）の値は四捨五入し整数値で示している。

ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

平成 25 年度調査からの 7 年間に於いて、次のことが分かる。

◇国語は、平成 28 年度までは全国の平均正答率を下回っていたが、昨年度から全国の平均正答率とほぼ同じになっている。数学は、平成 25、26 年度は全国の平均正答率との差が－2 であったものが平成 28 年度からは 0 から－1 の範囲で推移している。（表Ⅱ-4）

◆英語は、全国の平均正答率との差が－2 である。（表Ⅱ-4）

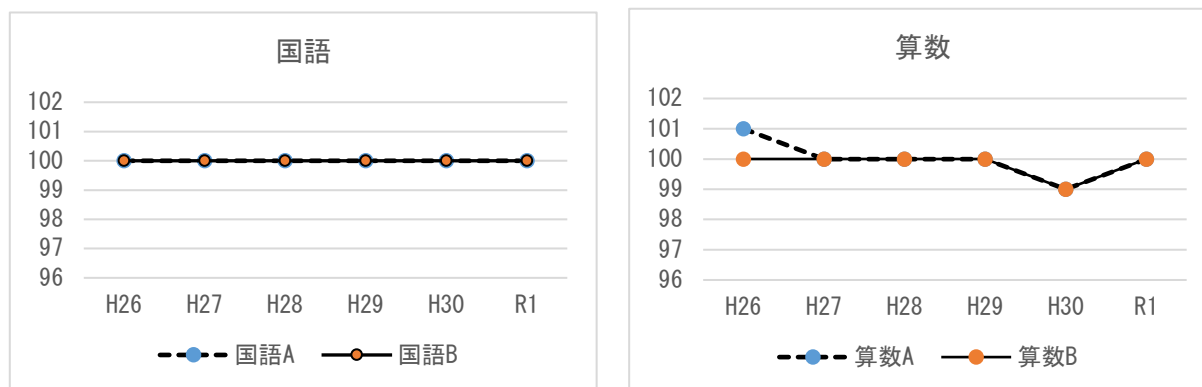
(3) 過去6回（平成26年度～平成31年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析

① 小学校の経年変化（標準化得点※）と分析

※標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

i) 標準化得点

〔グラフⅡ-11〕 標準化得点の推移



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

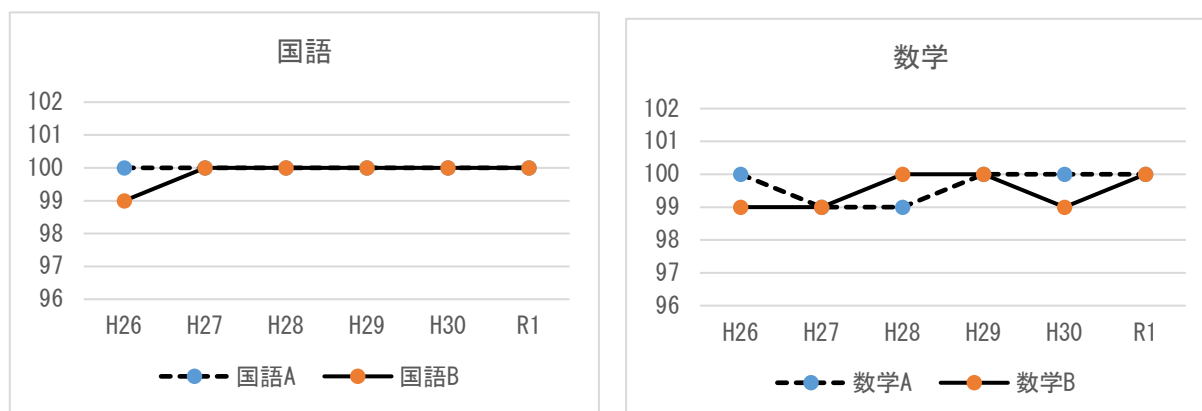
◇国語の標準化得点は、平成26年度以降、100で推移している。（グラフⅡ-11）

◇算数の標準化得点は、平成30年度は、A問題、B問題ともに99であったが、今年度は100である。（グラフⅡ-11）

② 中学校の経年変化（標準化得点）と分析

i) 標準化得点

〔グラフⅡ-12〕 標準化得点の推移



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の標準化得点は、平成27年度以降、100で推移している。（グラフⅡ-12）

◇数学の標準化得点は、平成26年度以降、A問題またはB問題が99と100を推移していたが、今年度は100である。（グラフⅡ-12）

(4) 過去5回（平成27年度～平成31年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析

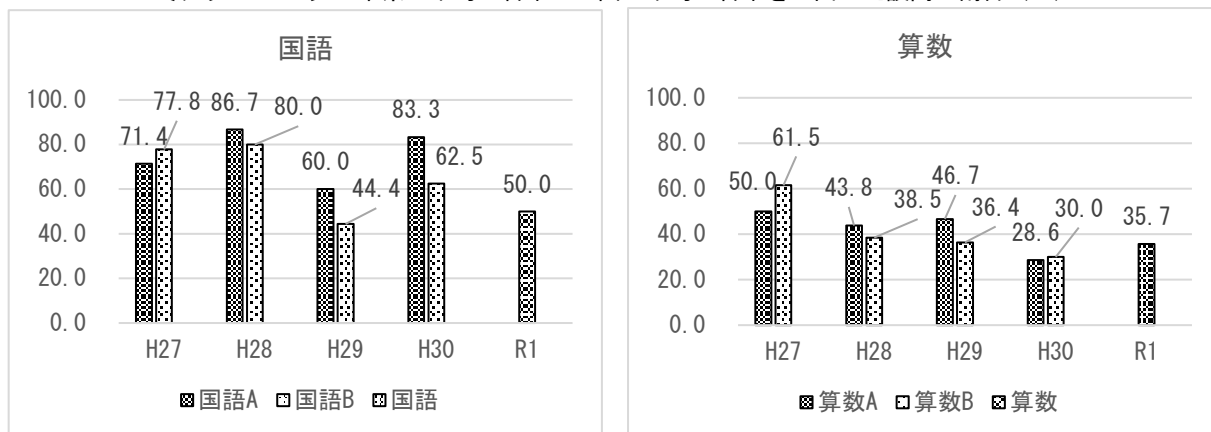
① 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問数と無答率

〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

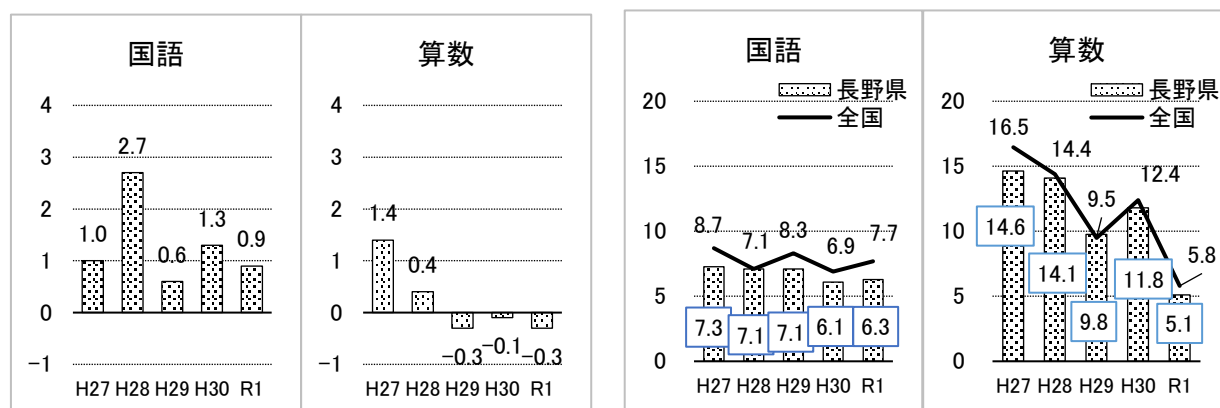
	国語A	国語B	算数A	算数B
平成27年度	10／14	7／9	8／16	8／13
平成28年度	13／15	8／10	7／16	5／13
平成29年度	9／15	4／9	7／15	4／11
平成30年度	10／12	5／8	4／14	3／10
	国語		算数	
平成31年度	7／14		5／14	

〔グラフⅡ-13〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-14〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）

〔グラフⅡ-15〕 記述問題における平均無答率（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇算数の全国の平均正答率を上回った設問の割合は、昨年度よりも増加している。（グラフⅡ-13）

◇国語の記述問題の正答率は、全国平均正答率を上回っている。（グラフⅡ-14）

◇国語、算数とも、記述問題の平均無答率は全国平均を下回っている。（グラフⅡ-15）

◆算数の記述問題の平均正答率は、平成29年度以降、全国平均正答率より低い状態が続いている。（グラフⅡ-14）

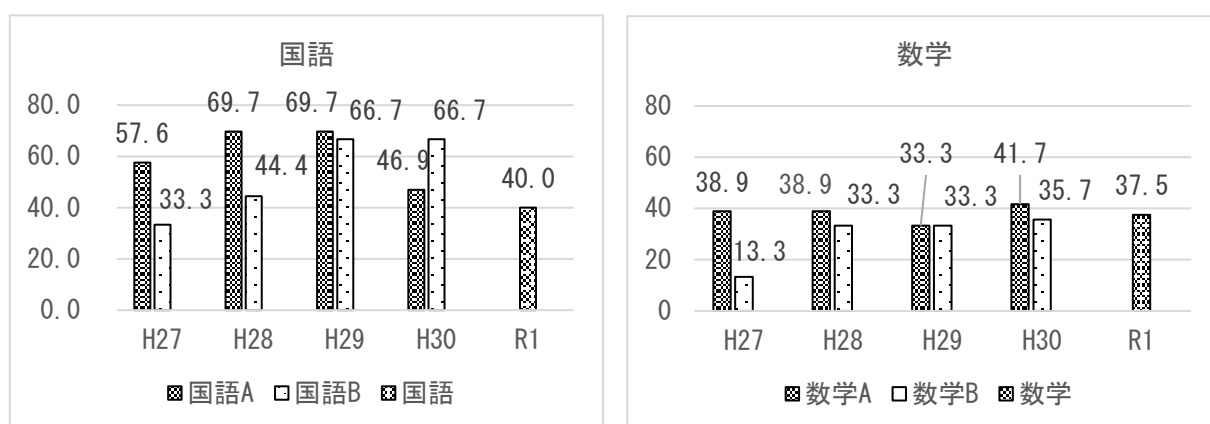
② 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問と無答率

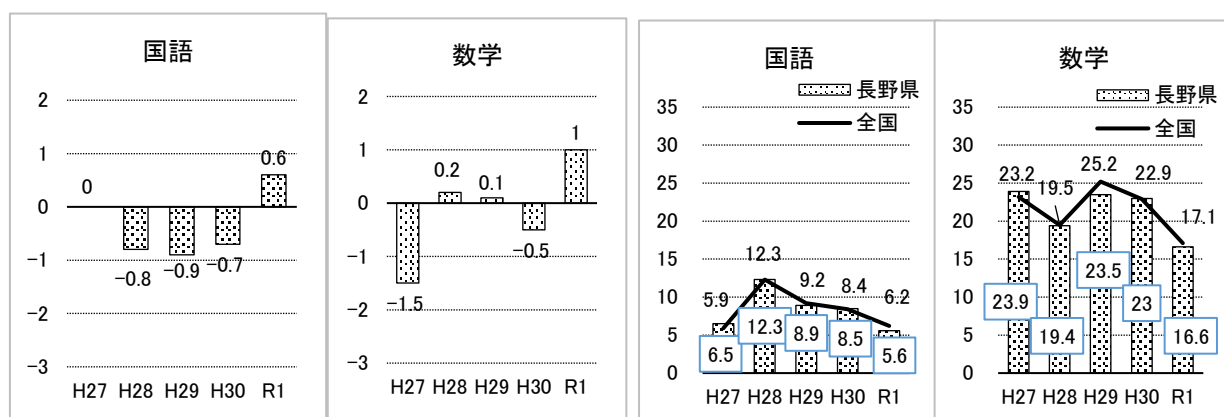
〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

	国語A	国語B	数学A	数学B
平成 27 年度	19／33	3／9	14／36	2／15
平成 28 年度	23／33	4／9	14／36	5／15
平成 29 年度	23／32	6／9	12／36	5／15
平成 30 年度	15／32	6／9	15／36	5／14
	国語		数学	
平成 31 年度	4／10		6／16	

〔グラフⅡ-16〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-17〕 記述問題の全国平均正答率との差（％） 〔グラフⅡ-18〕 記述問題における平均無答率（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇今年度の国語，数学の記述問題の平均正答率は，全国を上回っている。（グラフⅡ-17）

◇国語，数学の記述問題における平均無答率は，全国を下回っている。（グラフⅡ-18）

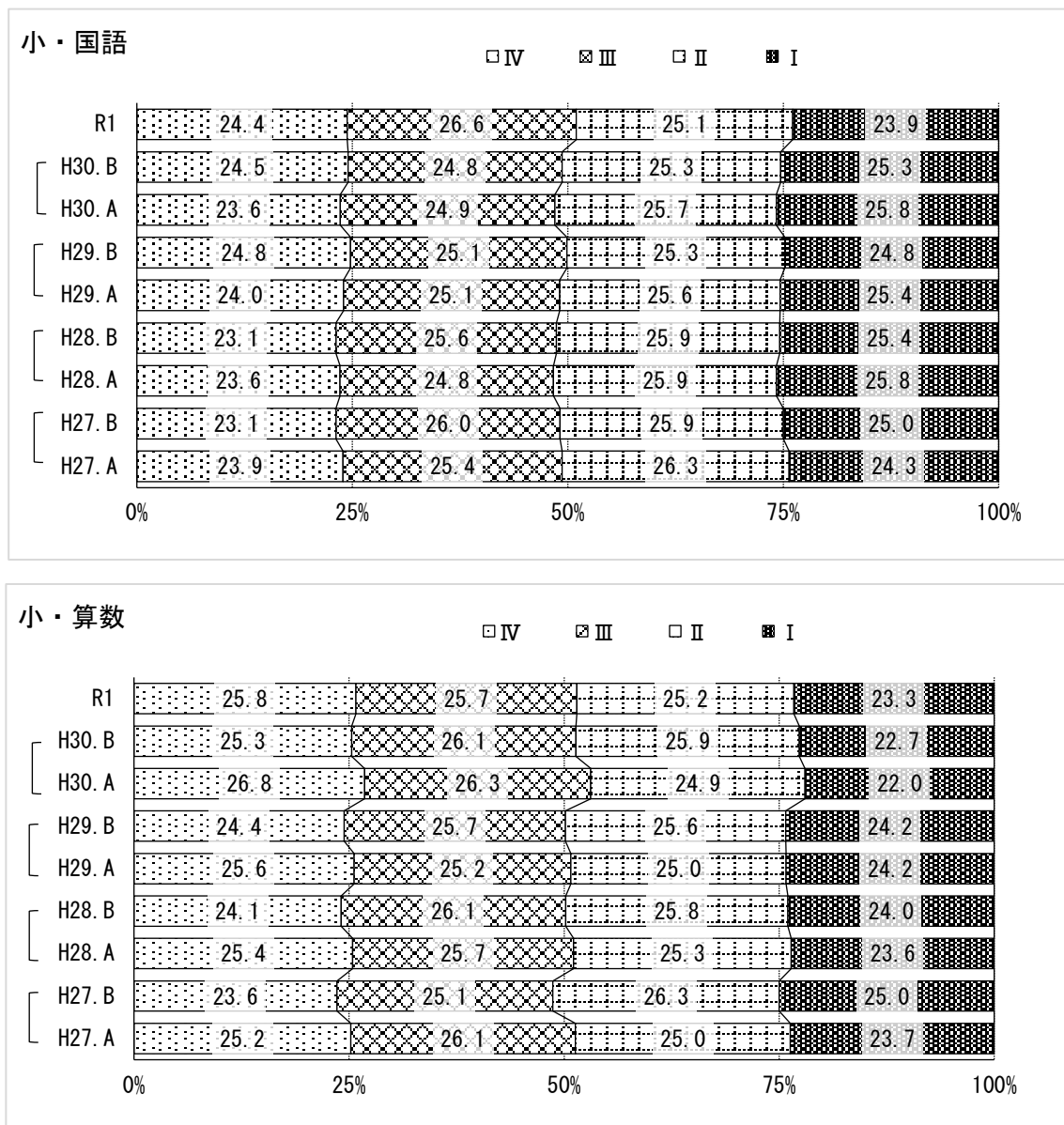
◆国語では，全国の平均正答率を上回った設問の割合が昨年度より減少している。（グラフⅡ-16）

③ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

i) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ（上位 25%以内）、Ⅱ（25%～50%）、Ⅲ（50%～75%）、Ⅳ（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-19〕 分布に着目した経年の状況



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇算数はⅠ層の割合が昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が昨年度と比べて増加していることがわかる。（グラフⅡ-19）

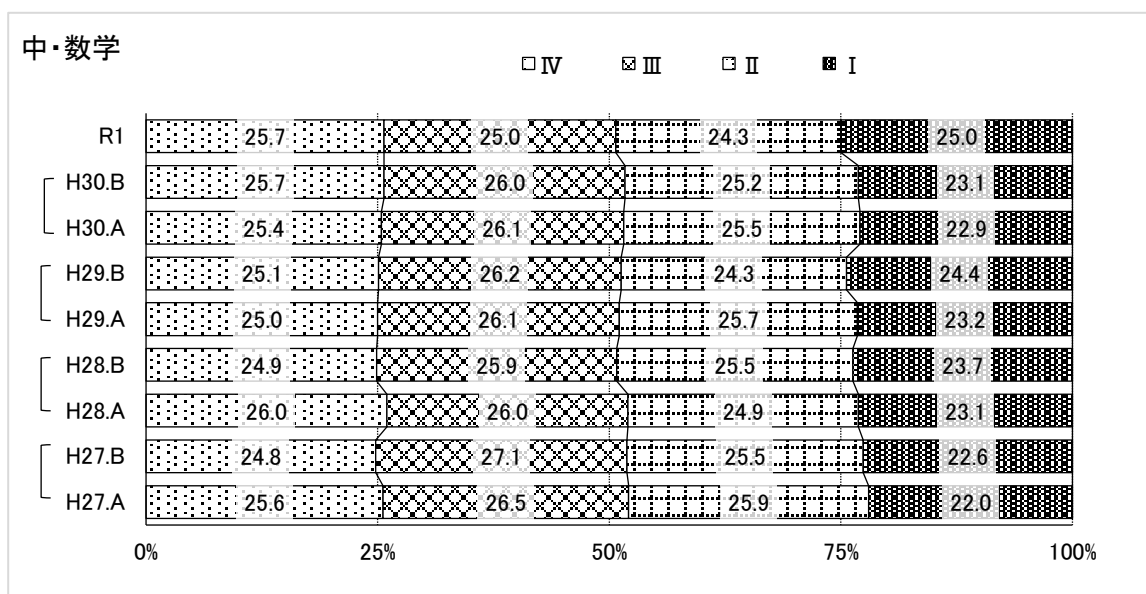
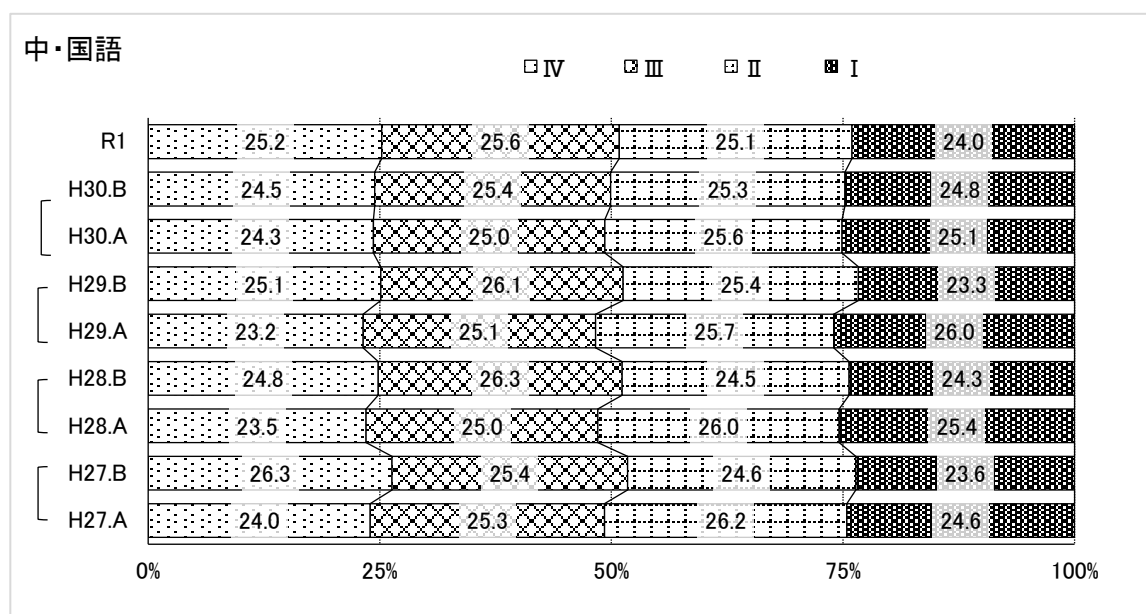
◆国語はⅠ層の割合が昨年度よりも減少したことから、上位層の割合が昨年度と比べて減少していることがわかる。（グラフⅡ-19）

◆算数はⅣ層の割合が 25%を上回っている状態が続いている。（グラフⅡ-19）

④ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

i) 分布に着目した経年の状況

〔グラフⅡ-20〕 分布に着目した経年の状況



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇数学はⅠ層の割合が昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が昨年度と比べて増加していることがわかる。（グラフⅡ-20）

◆国語はⅠ層の割合が昨年度よりも減少し、Ⅳ層が昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が昨年度と比べて減少し、下位層の割合が昨年度と比べて増加していることがわかる。

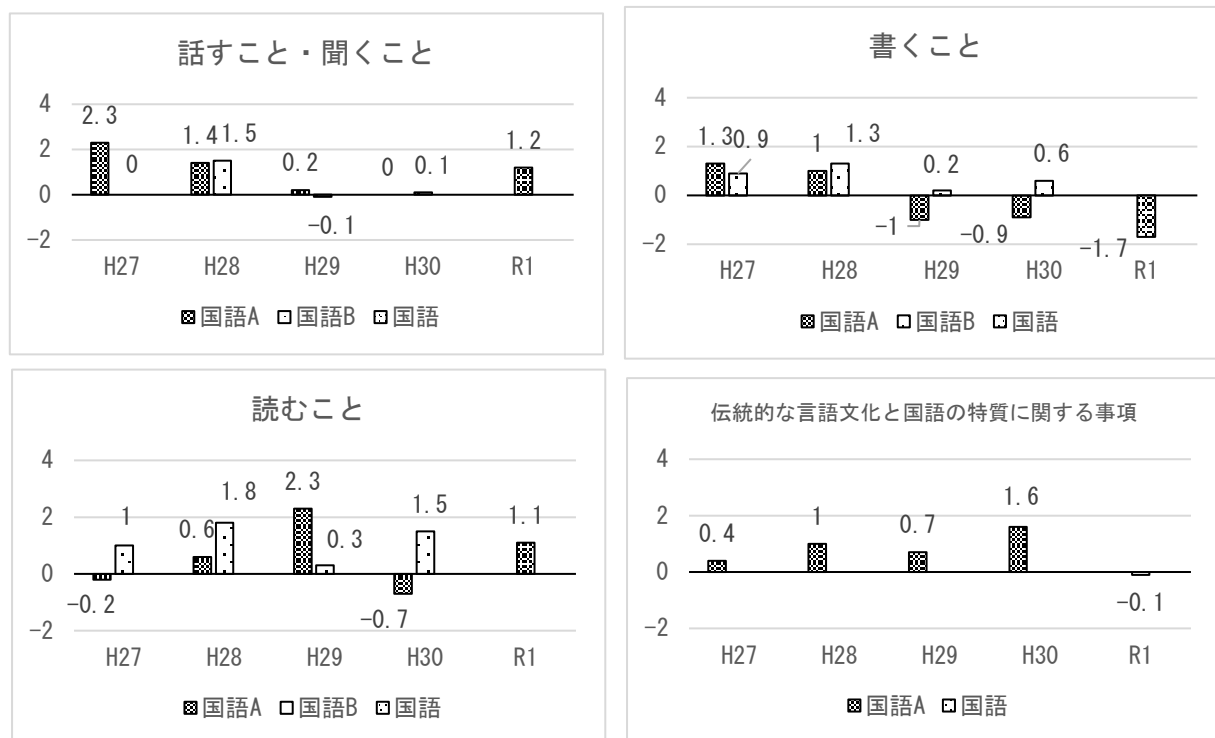
（グラフⅡ-20）

⑤ 小学校国語の経年変化と分析

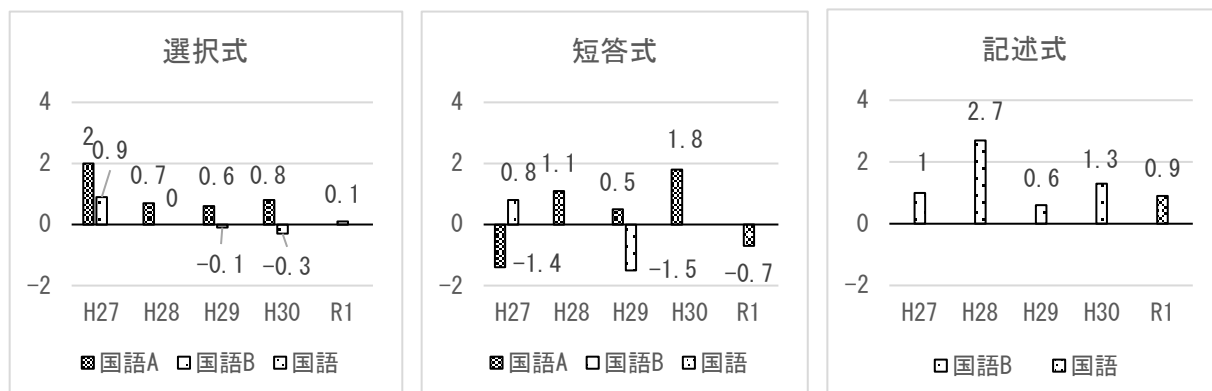
i) 領域、問題形式ごとの経年変化の状況

平成 27 年度から今年度までの領域と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-21〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-22〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇話すこと・聞くことの前正答率年全国を上回っている。(グラフⅡ-21)

◇記述式の前正答率年全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-22)

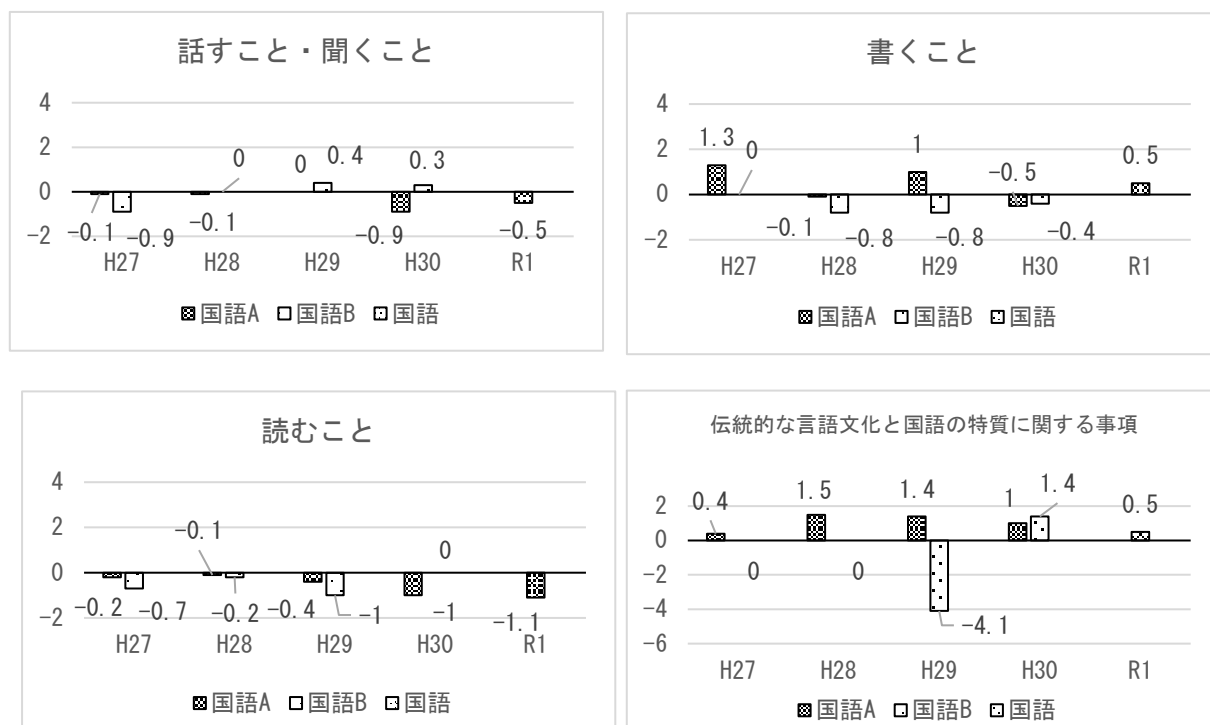
◆書くことの前正答率年全国を下回っている。(グラフⅡ-21)

⑥ 中学校国語の経年変化と分析

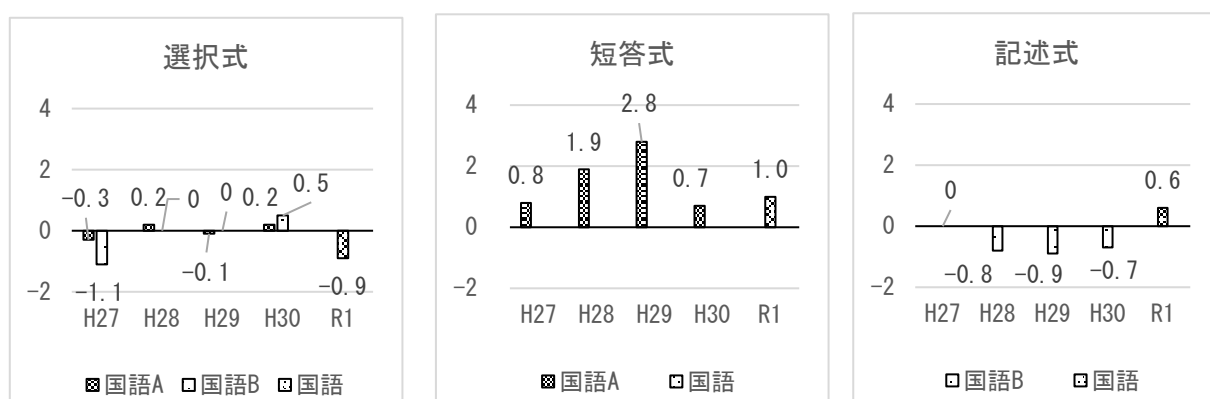
i) 領域、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても領域と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-23〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-24〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析

◇ : 成果 ◆ : 課題

◇書くこと、記述式の平均正答率は全国を上回っている。(グラフⅡ-23, 24)

◇短答式の平均正答率は全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-24)

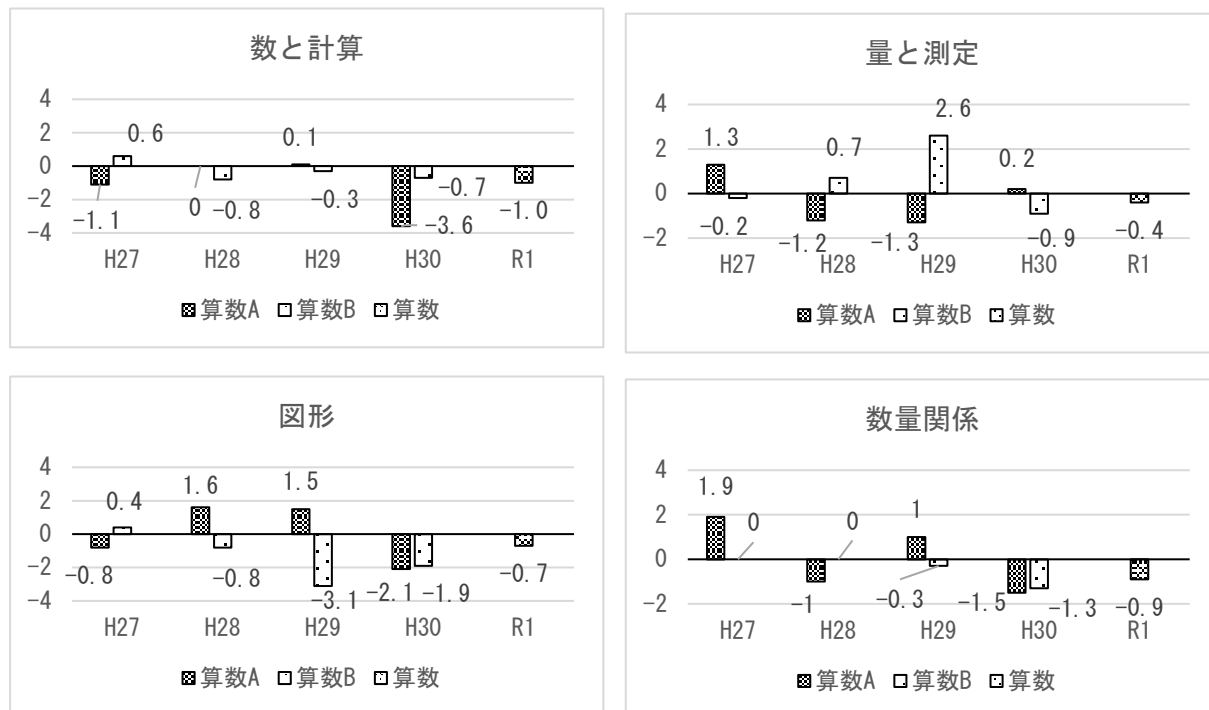
◆読むことの平均正答率は全国を下回る状況が続いている。(グラフⅡ-23)

⑦ 小学校算数の経年変化と分析

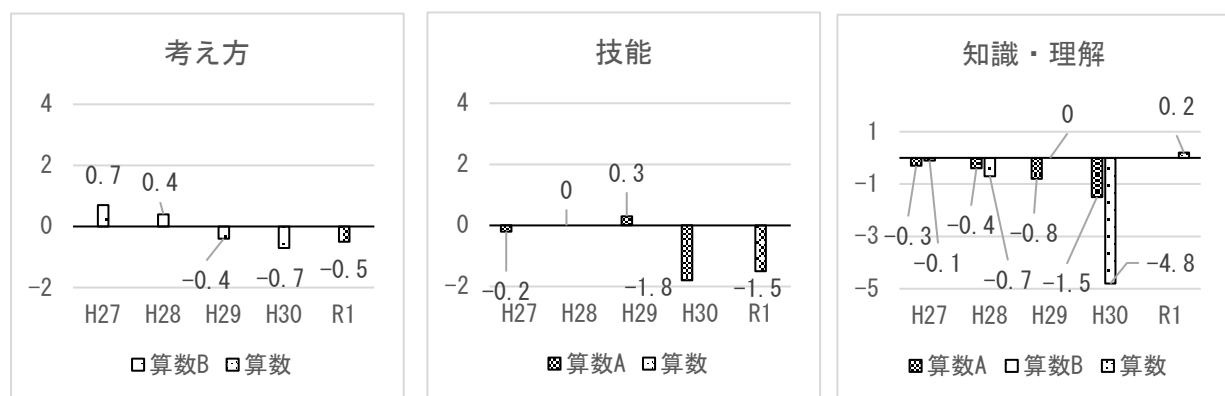
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-25〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-26〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇知識・理解の平均正答率は全国を上回り、改善の傾向が見られる。(グラフⅡ-26)

◆領域は全て全国の平均正答率を下回っている。(グラフⅡ-25)

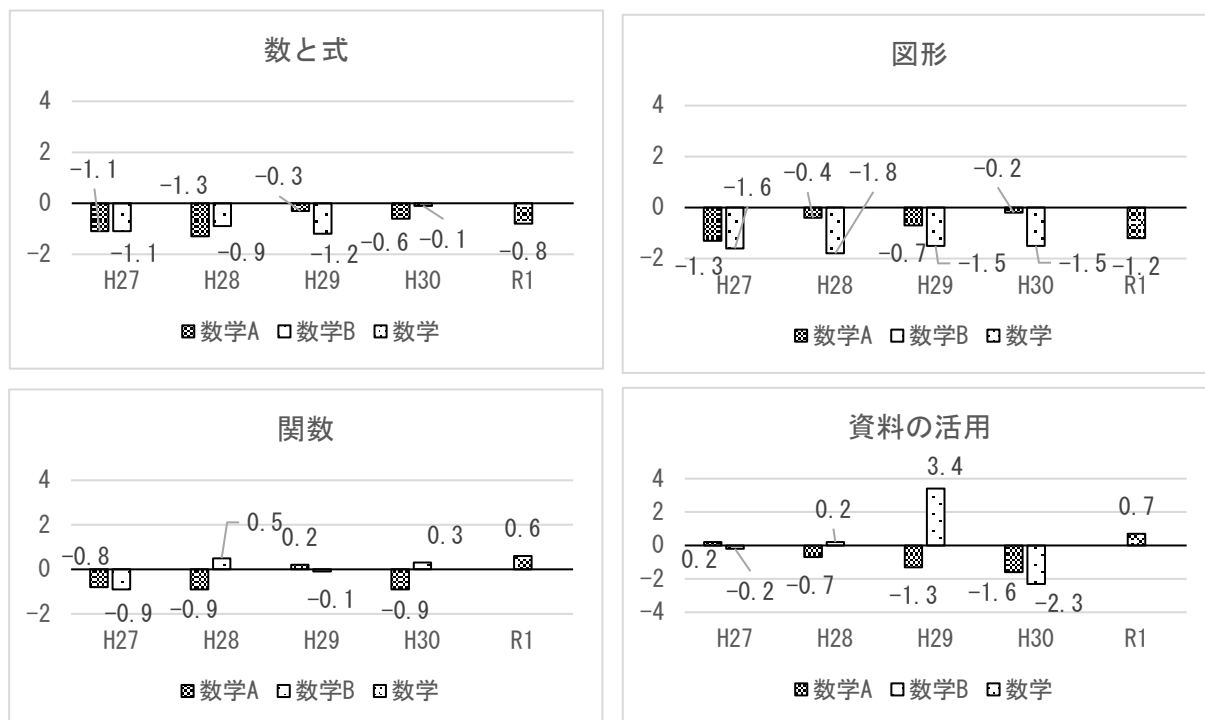
◆考え方は平成29年度以降、全国の平均正答率を下回る状況が続いている。(グラフⅡ-26)

⑧ 中学校数学の経年変化と分析

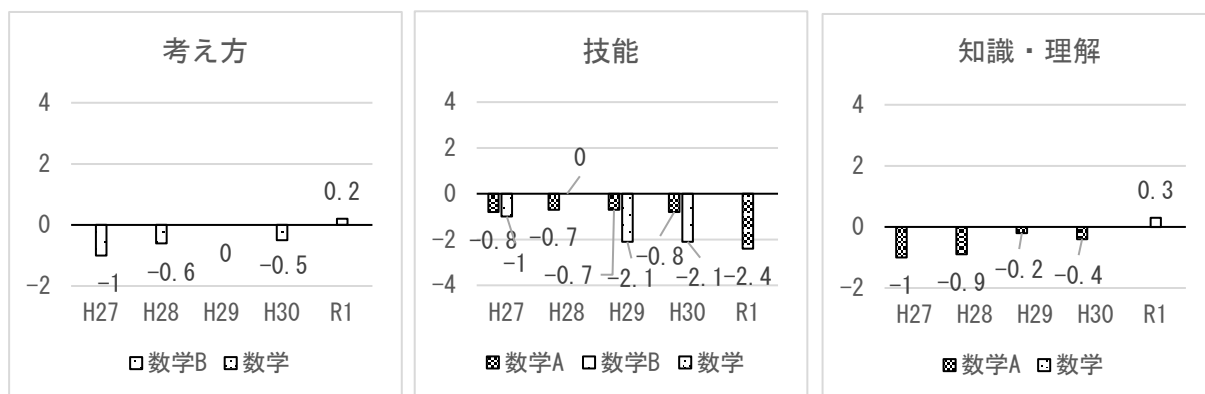
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

算数と同様に、数学についても領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-27〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-28〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇関数，資料の活用領域は全国の平均正答率を上回っている。（グラフⅡ-27）

◇考え方，知識・理解は，今年度は全国の平均正答率を上回っている。（グラフⅡ-28）

◆技能は全国の平均正答率を下回る状況が続いている。（グラフⅡ-28）

2 質問紙調査の結果と分析

(1) 平成 31 年度（令和元年度）質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と、学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類^(※1)し、それぞれを「児童生徒」、「学校運営」に整理し、領域ごとに全国を 100 としてスコア化^(※2)した。

「児童生徒」、「学校運営」の領域は次のとおりである。

「児童」 6 領域, 「生徒」 7 領域

- ・ 学習に対する関心・意欲・態度
 - ✓ 算数・数学への関心等
 - ✓ 英語への関心等(「生徒」のみ)
 - ✓ 地域・社会への関心等
- ・ 自己及び社会に対する認識
 - ✓ 規範意識
 - ✓ 自尊感情
- ・ 学習の基盤となる活動・習慣
 - ✓ 生活習慣
 - ✓ 学習習慣

「小学校運営」 6 領域, 「中学校運営」 7 領域

- ・ 教科指導
 - ✓ 個に応じた指導
 - ✓ 算数・数学科の指導法
 - ✓ 英語の指導法(「中学校運営」のみ)
- ・ 学力向上
 - ✓ 学力向上に向けた取組・指導方法
 - ✓ 家庭学習
- ・ 学校経営
 - ✓ 地域の人材・施設の活用
 - ✓ 教員研修・教職員の取組

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に準ずる。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして事務局でスコアを算出した。

① 小学校調査

i) 結果

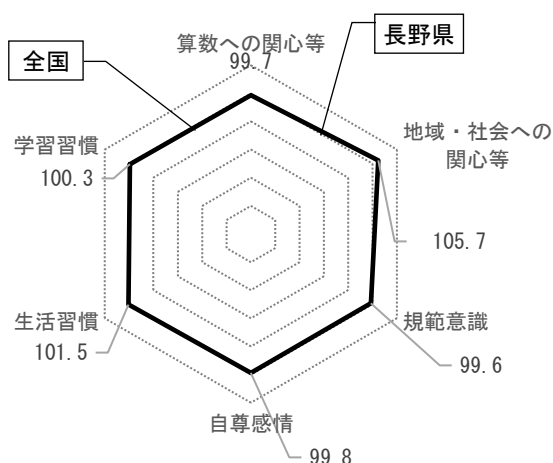
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する 関心・意欲・態度	算数への関心等	99.7
	地域・社会への関 心等	105.7
自己及び社会に 対する認識	規範意識	99.6
	自尊感情	99.8
学習の基盤となる 活動・習慣	生活習慣	101.5
	学習習慣	100.3

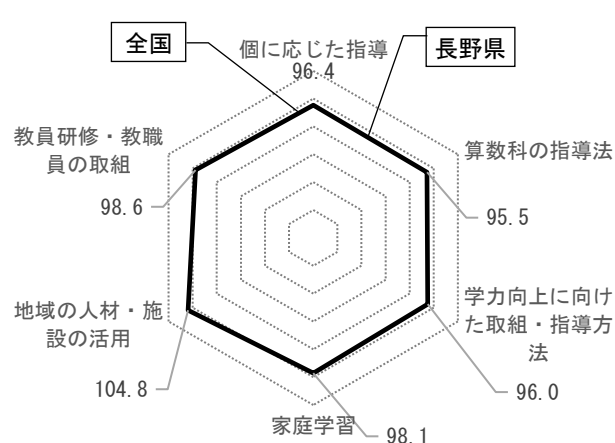
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	96.4
	算数科の指導法	95.5
学力向上	学力向上に向けた取組・ 指導方法	96.0
	家庭学習	98.1
学校経営	地域の人材・施設の活用	104.8
	教員研修・教職員の取組	98.6

〔グラフⅡ-29〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-30〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



ii) 分析

◇：成果 ◆：課題

◇〔児童〕のスコアは、いずれの領域においても概ね全国と同程度である。目立つものとして、地域・社会への関心が5ポイント以上、全国を上回っている。（表Ⅱ-7）

◇〔学校運営〕では、地域の人材・施設の活用で全国平均を約4ポイント上回っている。

（表Ⅱ-8）

◆〔学校運営〕では、教科指導、学力向上の領域における項目が全国を下回っている。

（表Ⅱ-8）

② 中学校調査

i) 結果

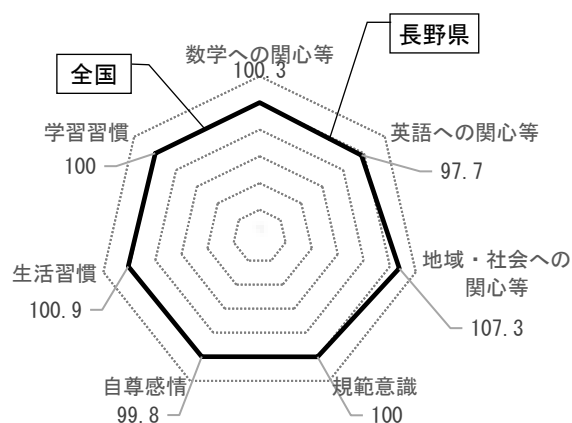
〔表Ⅱ-9〕 〔生徒〕のスコア（中学校）

領域名		スコア
学習に対する 関心・意欲・態度	数学への関心等	100.3
	英語への関心等	97.7
	地域・社会への関心等	107.3
自己及び社会に 対する認識	規範意識	100.0
	自尊感情	99.8
学習の基盤となる 活動・習慣	生活習慣	100.9
	学習習慣	100.0

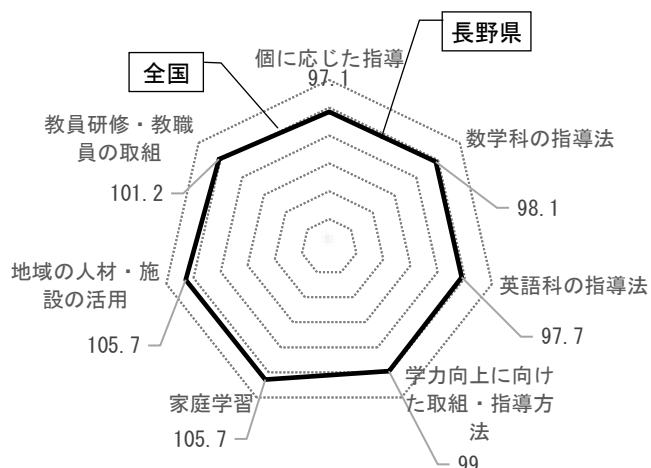
〔表Ⅱ-10〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	97.1
	数学科の指導法	98.1
	英語科の指導法	97.7
学力向上	学力向上に向けた取組・指導方法	99.0
	家庭学習	105.7
学校経営	地域の人材・施設の活用	105.7
	教員研修・教職員の取組	101.2

〔グラフⅡ-31〕 〔生徒〕のスコア（中学校）



〔グラフⅡ-32〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔生徒〕のスコアは、英語への関心を除いた項目では全国と同程度または全国を上回っている。（表Ⅱ-9）

◇〔学校運営〕の家庭学習、地域人材・施設の活用は全国平均を5ポイントほど上回っている。（表Ⅱ-10）

◆〔生徒〕では、英語への関心等のスコアが、全国平均と比べて約2ポイント下回っている。（表Ⅱ-9）

◆〔学校運営〕では、教科指導のスコアが、全国平均を下回っている。（表Ⅱ-10）

(2) 過去5回（平成27年度～平成31年度（令和元年度））の調査結果の経年変化と分析

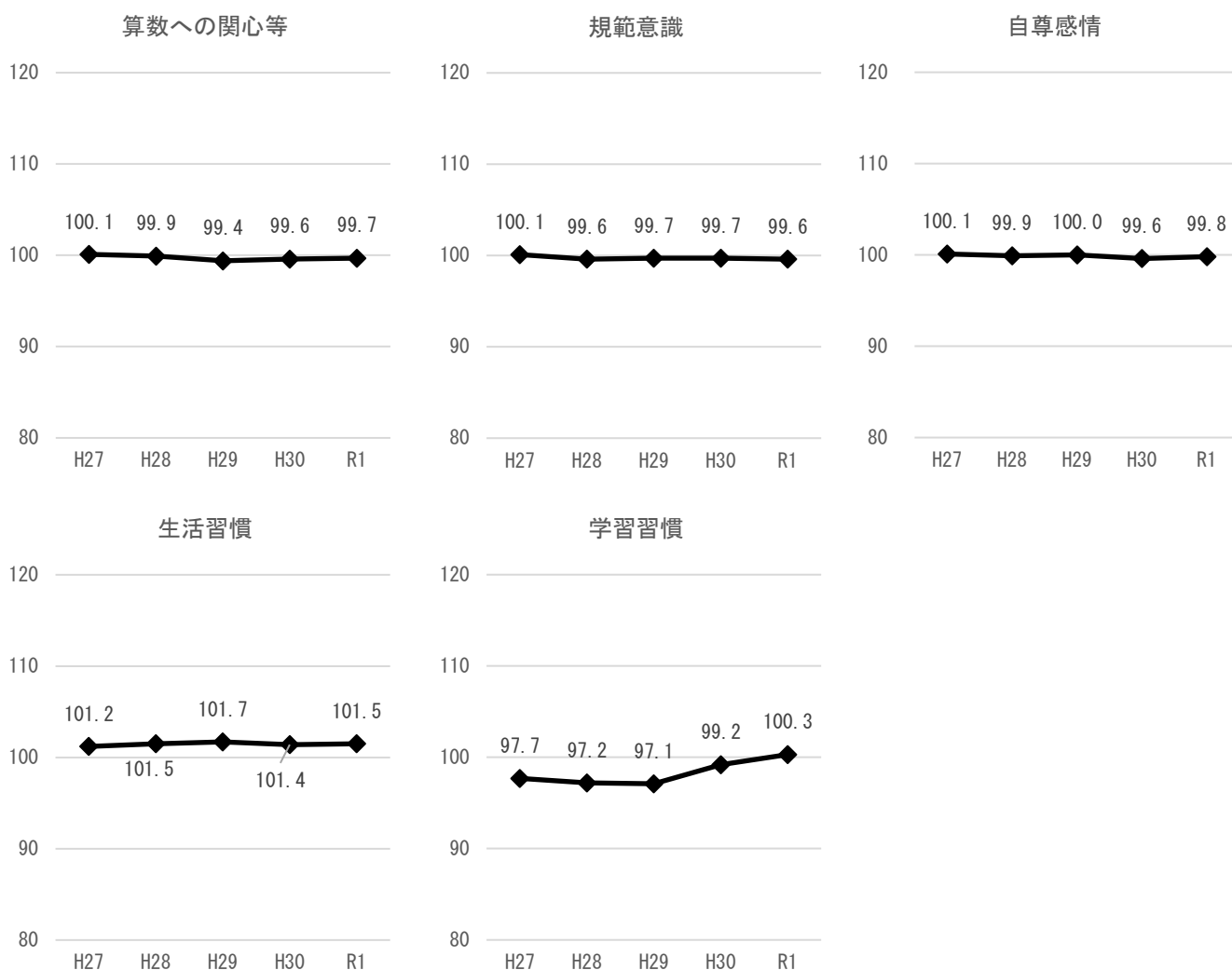
① 小学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

領域名		H27	H28	H29	H30	R1
学習に対する 関心・意欲・態度	国語への関心等	100.4	100.1	100.5		100.3
	算数への関心等	100.1	99.9	99.4	99.6	99.7
	総合的な学習の時間への関心等	97.1	99.2	96.3		95.5
自己及び社会に 対する認識	規範意識	100.1	99.6	99.7	99.7	99.6
	自尊感情	100.1	99.9	100.0	99.6	99.8
学習の基盤となる 活動・習慣	言語活動・読解力	99.7	99.3	99.4		98.0
	生活習慣	101.2	101.5	101.7	101.4	101.5
	学習習慣	97.7	97.2	97.1	99.2	100.3

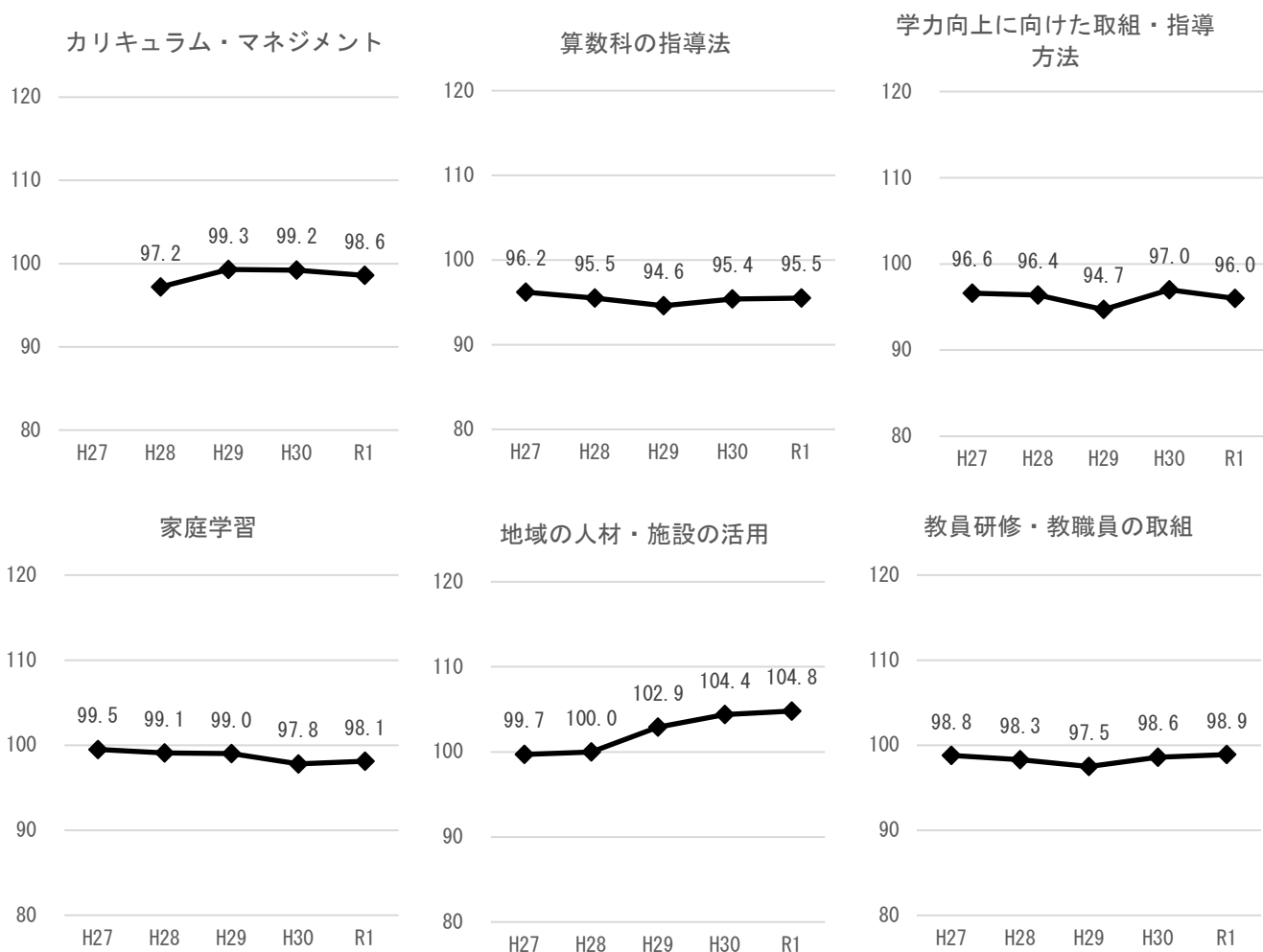
〔グラフⅡ-33〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		H27	H28	H29	H30	R1
教科指導	カリキュラム・マネジメント		97.2	99.3	99.2	98.6
	国語科の指導法	97.5	96.8	96.6		95.5
	算数科の指導法	96.2	95.5	94.6	95.4	95.5
学力向上	児童の状況	100.5	99.1	99.2		99.1
	学力向上に向けた取組・指導方法	96.6	96.4	94.7	97.0	96.0
	家庭学習	99.5	99.1	99.0	97.8	98.1
学校経営	地域の人材・施設の活用	99.7	100.0	102.9	104.4	104.8
	教員研修・教職員の取組	98.8	98.3	97.5	98.6	98.9

〔グラフⅡ-34〕〔学校運営〕のスコアの経年変化



ii) 分析

◇: 成果 ◆: 課題

- ◇ [児童] の学習習慣はスコアの上昇が続き、全国平均を上回っている。(表Ⅱ-11)
- ◇ [学校運営] の地域の人材・施設の活用では4年間スコアの上昇が続いている。(表Ⅱ-12)
- ◆ [学校運営] のカリキュラム・マネジメント、学力向上に向けた取組・指導方法では、スコアの下降傾向が見られる。(表Ⅱ-12)

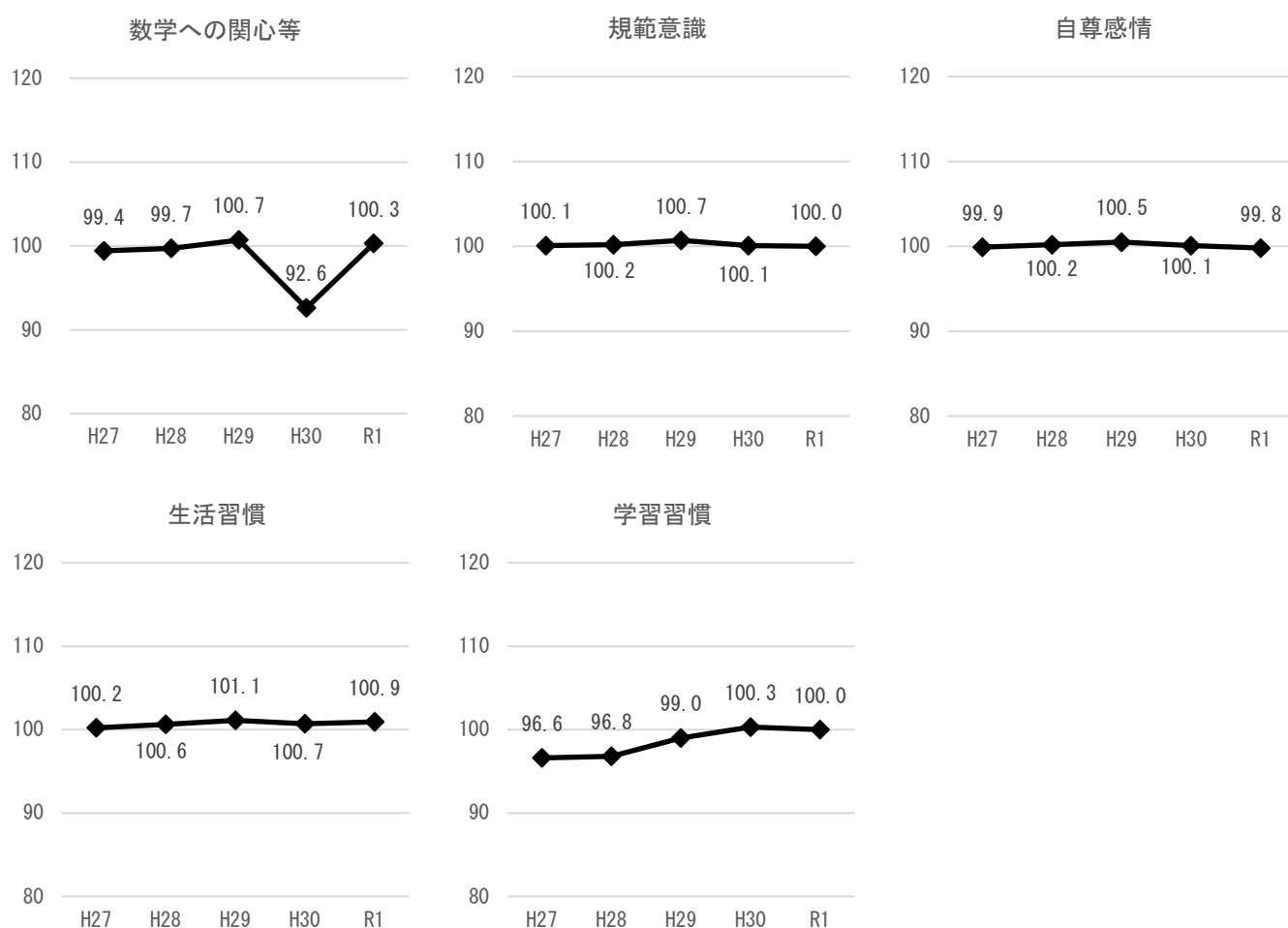
② 中学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 〔生徒〕のスコアの経年変化

領域名		H27	H28	H29	H30	R1
学習に対する 関心・意欲・態度	国語への関心等	99.6	99.7	100.9		94.6
	数学への関心等	99.4	99.7	100.7	92.6	100.3
	総合的な学習の時間への 関心等	96.3	96.4	96.1		95.6
自己及び社会 に対する認識	規範意識	100.1	100.2	100.7	100.1	100.0
	自尊感情	99.9	100.2	100.5	100.1	99.8
学習の基盤と なる活動・習慣	言語活動・読解力	100.1	99.8	99.2		99.9
	生活習慣	100.2	100.6	101.1	100.7	100.9
	学習習慣	96.6	96.8	99.0	100.3	100.0

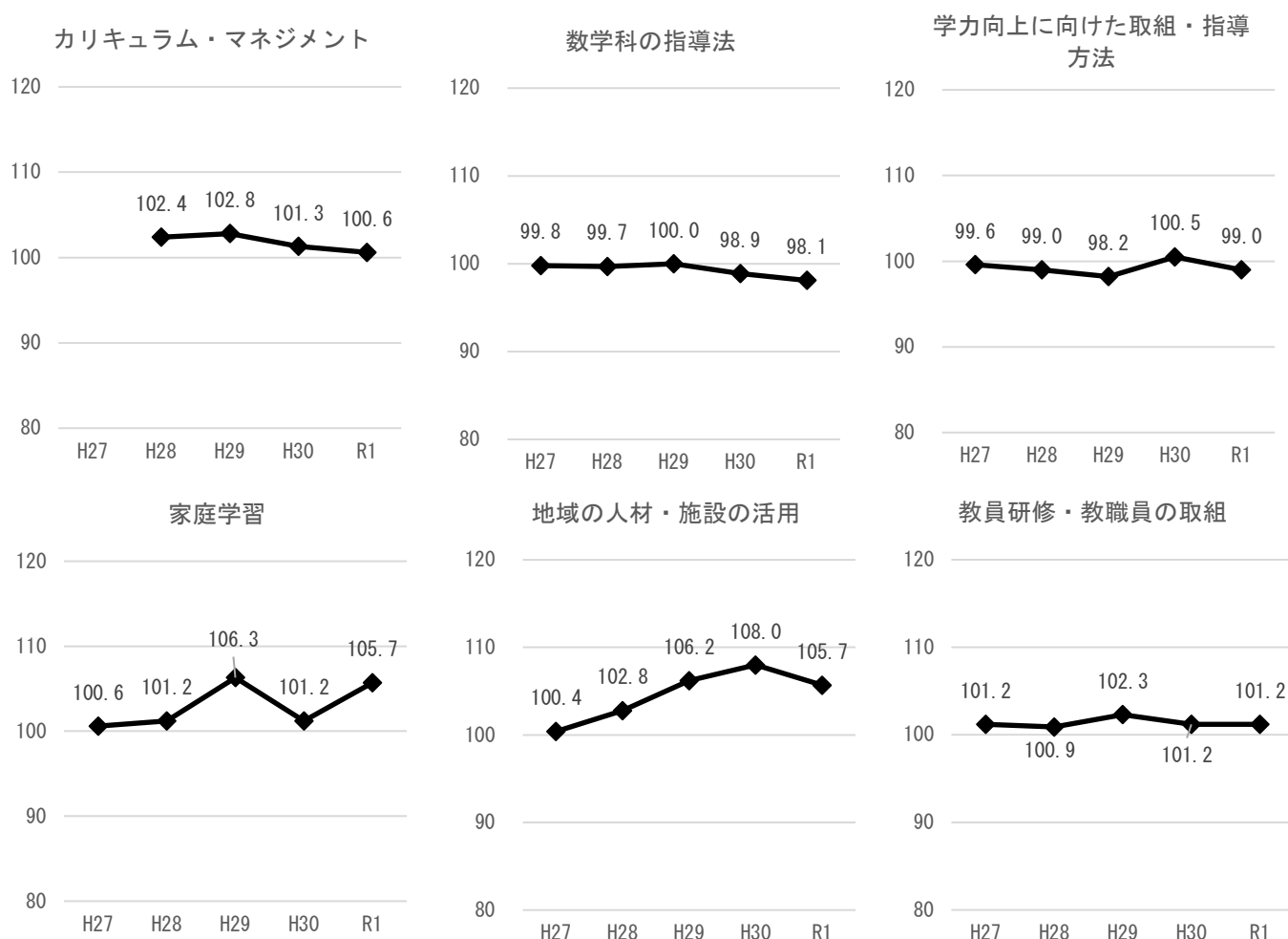
〔グラフⅡ-35〕 〔生徒〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		H27	H28	H29	H30	R1
教科指導	カリキュラム・マネジメント		102.4	102.8	101.3	100.6
	国語科の指導法	99.3	99.5	100.4		98.0
	数学科の指導法	99.8	99.7	100.0	98.9	98.1
学力向上	生徒の状況	101.2	101.4	101.3		101.7
	学力向上に向けた取組・指導方法	99.6	99.0	98.2	100.5	99.0
	家庭学習	100.6	101.2	106.3	101.2	105.7
学校経営	地域の人材・施設の活用	100.4	102.8	106.2	108.0	105.7
	教員研修・教職員の取組	101.2	100.9	102.3	101.2	101.2

〔グラフⅡ-36〕〔学校運営〕のスコアの経年変化



ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

- ◇ [生徒] の数学への関心等のスコアは、昨年度に比べ、上昇傾向が見られる。(グラフⅡ-35)
- ◇ [学校運営] の家庭学習のスコアは、昨年度に比べ、上昇傾向が見られる。(グラフⅡ-36)
- ◆ [生徒] の国語への関心等のスコアは、平成 29 年度まで緩やかな上昇傾向を見せていたが、本年度は下降している。(表Ⅱ-13)
- ◆ [学校運営] のカリキュラム・マネジメント、数学科の指導法のスコアは、平成 29 年度以降下降傾向が見られる。(グラフⅡ-36)

Ⅲ 全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち、「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果」で取り上げられている項目と関連させて、長野県の結果をまとめた。ただし、三重クロス分析（就学援助率別の平均正答率）については、本県における「調査対象学年の児童・生徒のうち、就学援助を受けている児童・生徒の割合」が 30%以上の学校数が少ない（小学校 7 校、中学校 4 校）ため、分析から外してある。

○ 調査概要

（１）調査日時：平成 31 年 4 月 18 日（木）

（２）調査事項：①児童生徒に対する調査：国語，算数・数学，英語及び質問紙調査
②学校に対する質問紙調査

（３）調査対象及び集計対象児童生徒・学校数：

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	4 月 18 日に調査を実施した児童数	4 月 18 日に調査を実施した学校数	4 月 18 日に調査を実施した生徒数	4 月 18 日に調査を実施した学校数
長野県（公立）	17,649 人	365 校	16,440 人	189 校
全国（公立）	1,028,203 人	19,263 校	938,888 人	9,513 校

※調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

（４）教科の調査結果

長野県（公立）の平均正答数・平均正答率

	小学校					中学校				
	国語		算数			国語		数学		英語
H31(R1) 全 国	8.9/14 問 63.8%		9.3/14 問 66.6%			7.3/10 問 72.8%		9.6/16 問 59.8%		11.8/21 問 56.0%
H31(R1) 長野県	8.9/14 問 64%		9.2/14 問 66%			7.3/10 問 73%		9.5/16 問 60%		11.3/21 問 54%
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
H30 長野県	8.6 /12 問 72%	4.4 /8 問 55%	8.7 /14 問 62%	5.0 /10 問 50%	9.8 /16 問 61%	24.5 /32 問 76%	5.5 /9 問 61%	23.6 /36 問 65%	6.4 /14 問 46%	17.9 /27 問 66%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

（５）今年度の変更点

- ・ A 問題と B 問題を一体的に問う問題形式
- ・ 初めての英語調査実施

1 教科に関する調査結果

(注) □…全国の平均正答率を上回る主な設問

■…全国の平均正答率を下回る主な設問

小学校国語

□必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読む。

疑問に思ったことを調べ、紹介し合う設問(「食べ物の保存」)

【大問2 設問二】90.7%(全国比 +2.2)

□インタビューの場面で、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をする。

地域で活躍する人を紹介する設問(豊職人へのインタビュー 【大問3 設問一】82.6%(全国比 +1.3))

□話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。

豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く設問

【大問3 設問三】69.8%(全国比 +1.6)

□ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。

ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する設問

【大問3 設問四】74.9%(全国比 +1.9)

■相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりする。

調べたことを報告する文章を書く設問(「公衆電話」)

【大問1 設問二】60.0%(全国比 -3.4)

■漢字(同音異義語)を文の中で使う。

調べたことを報告する文章を書く設問(「公衆電話」)

【大問1 設問四(1)ア】39.0%(全国比 -2.9)

中学校国語

□話合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ。

「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く設問

【大問2 設問三】61.6%(全国比 +1.2)

□伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。

広告誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える設問

【大問3 設問二】78.7%(全国比 +0.9)

□書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。

意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する設問

【大問3 設問一】87.5%(全国比 +0.1)

□封筒の書き方を理解して書く。

「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く設問

【大問1 設問四】57.8%(全国比 +1.0)

■文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。

指示された文章について説明したものとして適切なものを選択する設問

【大問1 設問一】62.9%(全国比 -1.0)

■文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。

「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する設問

【大問1 設問二】59.4%(全国比 -2.1)

■相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。

話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する設問

【大問2 設問二】68.4%(全国比 -1.3)

小学校算数

□台形について理解している。

長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ設問

【大問 1 設問(1)】94.6% (全国比 +1.5)

□棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る。

10 年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ設問

【大問 2 設問(1)】95.6% (全国比 +0.4)

□示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する。

被除数と除数にかけ数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する設問

【大問 3 設問(3)】75.3% (全国比 +0.4)

■2010 年の市全体の水の使用量が 1980 年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取る。

2010 年の市全体の水の使用量が 1980 年の市全体の水の使用量の何倍かを、棒グラフから読み取って書く設問

【大問 2 設問(2)】73.8% (全国比 -4.8)

■資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する。

二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。

【大問 2 設問(3)】50.4% (全国比 -1.7)

■示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する。

減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるかを書く設問

【大問 3 設問(2)】31.0% (全国比 -0.1)

中学校数学

□証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

証明で用いられている三角形の合同条件を書く設問

【大問 7 設問(1)】75.9% (全国比 +0.1)

□資料を整理した表から最頻値を読み取る。

読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める設問

【大問 8 設問(1)】61.2% (全国比 +3.3)

□事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2 つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する設問

【大問 6 設問(2)】38.5% (全国比 +3.8)

■簡単な連立二元一次方程式を解く。

連立二元一次方程式を解く設問

【大問 2】66.7% (全国比 -3.4)

■簡単な場合について、確率を求める。

2 枚の 10 円硬貨を同時に投げるとき、2 枚とも表の出る確率を求める設問

【大問 5】69.1% (全国比 -3.7)

■結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する。

四角形 ABCD がどのような四角形であれば、 $AF=CE$ になるかを説明する設問

【大問 7 設問(3)】50.8% (全国比 -2.5)

■与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える。

説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する。

【大問 9 設問(1)】56.7% (全国比 -0.7)

中学校英語

□語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取る。

話される英語を聞いて、主人公の一日の生活の流れの内容を最も適切に表している絵を選ぶ設問

【大問 1 設問(1)】91.4%(全国比 +0.3)

□まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する。

イギリスと日本の類似点や相違点についてスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える設問

【大問 2】72.7%(全国比 +0.9)

■日常的な話題について、情報を正確に聞き取る。

外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ設問

【大問 1 設問(3)】70.2%(全国比 -2.1)

家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ設問

【大問 1 設問(4)】61.1%(全国比 -0.7)

■日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る。

ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ設問

【大問 5 設問(2)】70.5%(全国比 -3.9)

月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選ぶ設問

【大問 5 設問(3)】70.6%(全国比 -2.5)

■まとまりのある英語を読んで、説明文の大切な部分を理解する。

チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選ぶ設問

【大問 7】29.6%(全国比 -3.2)

■書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえる。

食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く設問

【大問 8】8.2%(全国比 -2.7)

■文の中で適切に接続詞を用いる。

文中の空所に入れる接続詞として最も適切なもの(if)を選ぶ設問

【大問 9 設問(1)①】77.1%(全国比 -2.8)

文中の空所に入れる接続詞として最も適切なもの(because)を選ぶ設問

【大問 9 設問(1)②】55.4%(全国比 -2.8)

■一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文や1人称複数過去時制の肯定文を正確に書く。

与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語(Do you)を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く設問

【大問 9 設問(1)①】71.6%(全国比 -2.0)

与えられた英語を適切な形に変えたり(stayed)、不足している語(We)を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く設問

【大問 9 設問(1)②】21.5%(全国比 -7.4)

■与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文や否定文を正確に書く。

与えられた情報に基づいて、ある女性が住んでいる場所を説明する英文を書く設問

【大問 9 設問(3)②】29.0%(全国比 -3.9)

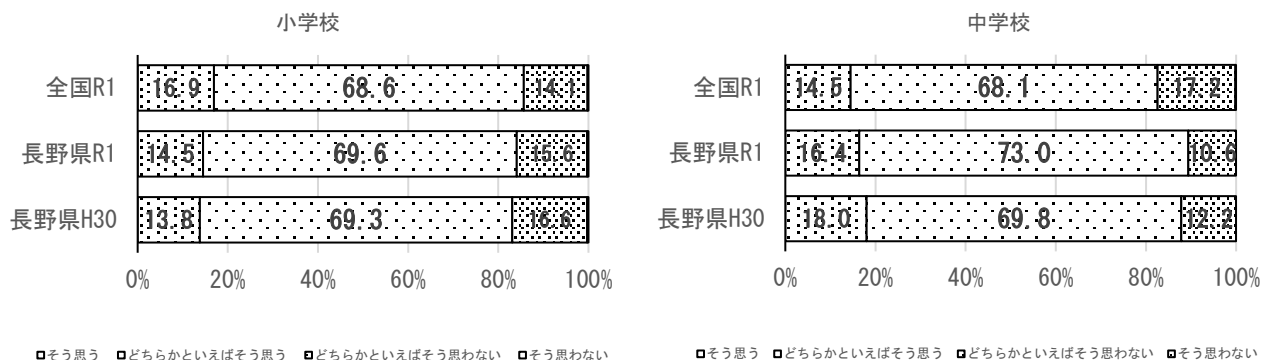
与えられた情報に基づいて、ある女性がペットを飼っていないことを説明する英文を書く設問

【大問 9 設問(3)③】33.7%(全国比 -3.7)

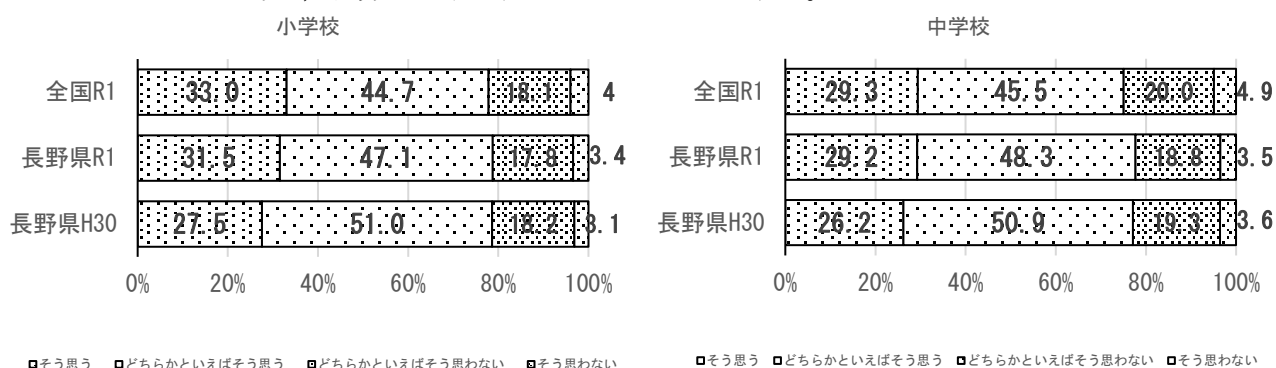
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は昨年度より増加しており、8割を超えている。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は昨年度と同様に7割を超え、全国平均を上回っている。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

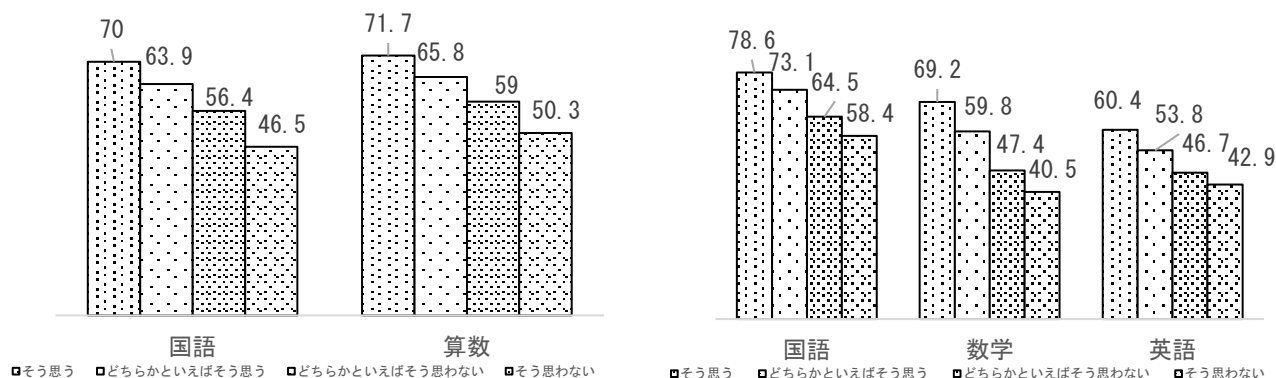
【学校質問紙】調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



【児童生徒質問紙】5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

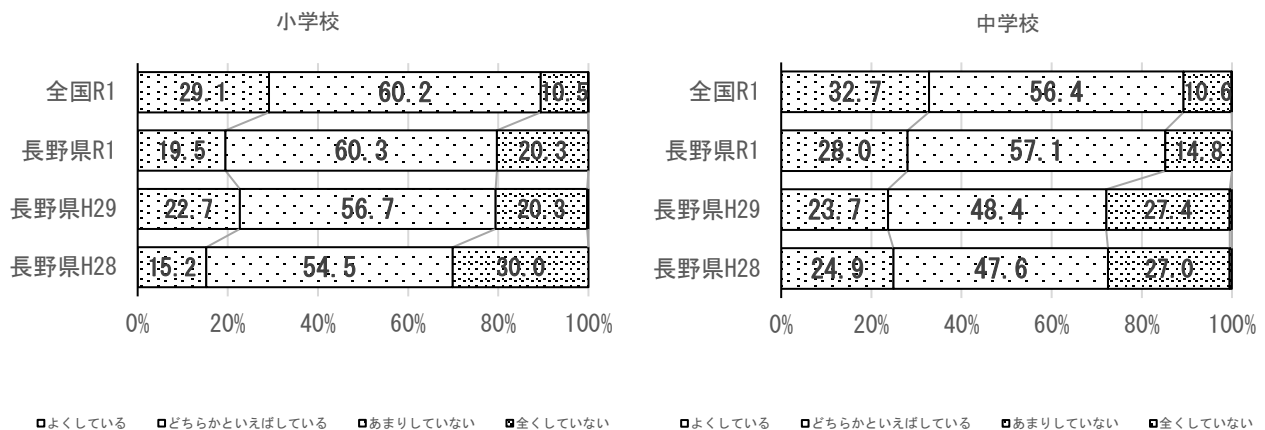


選択肢毎の平均正答率（％）



- 「総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は、平成 28 年度と比較すると増加傾向にあるが、全国平均を下回っている。
- 学級活動においても、「互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する」ことや「一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行う」ことについて、肯定的な回答をした小中学校の割合は 9 割を超えている。
- 総合的な学習の時間や学級会等の特別活動に意欲的に取り組んでいる小中学校の方が、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や、学級全員で挑戦する課題を与えることにより取り組んでいる傾向が見られる。

【学校質問紙】総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。 ※H30 は質問項目なし。

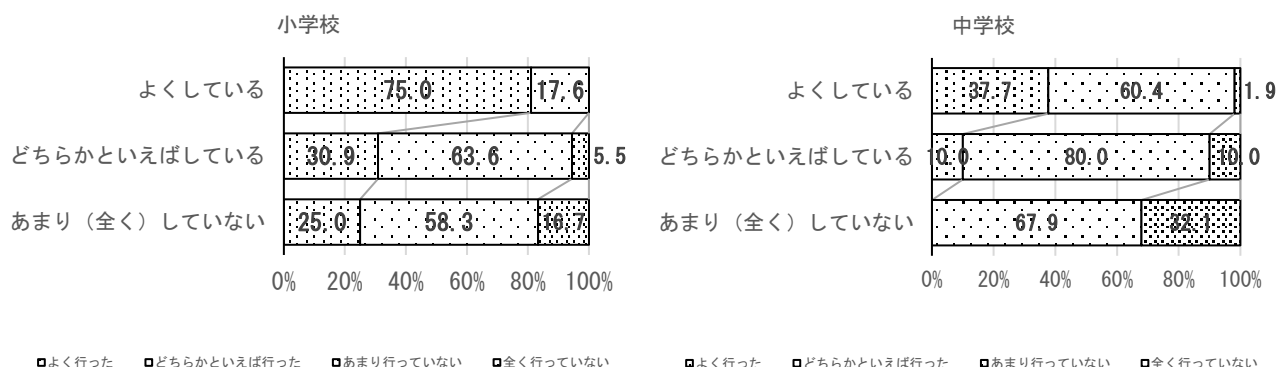


「総合的な学習の時間」と「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善」の関係

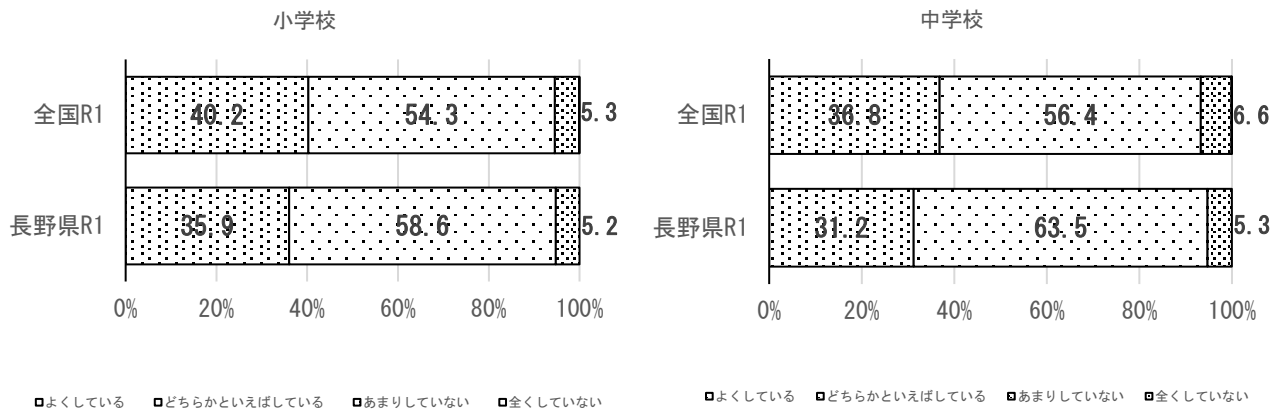
(学) 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか。



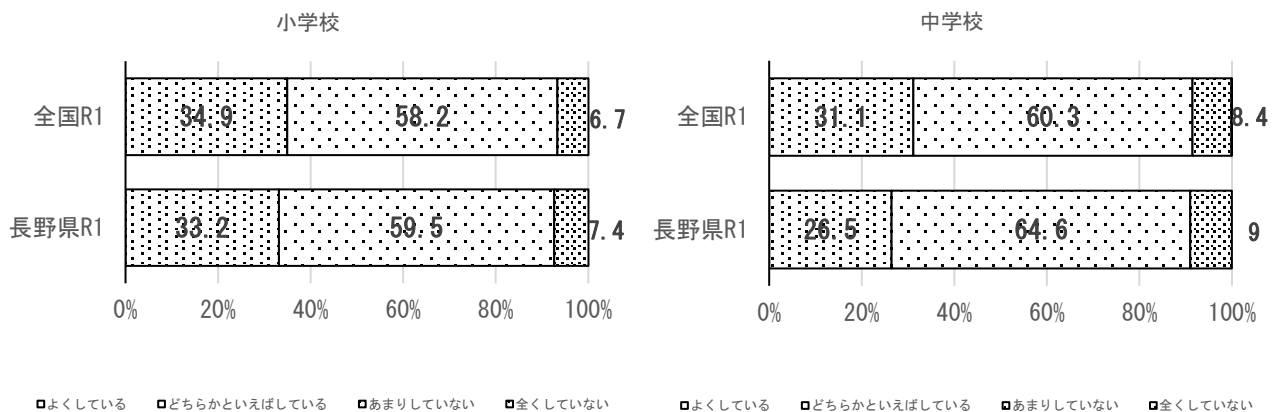
(学) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか。



【学校質問紙】学級生活をよりよくするために、学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。



【学校質問紙】学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか。

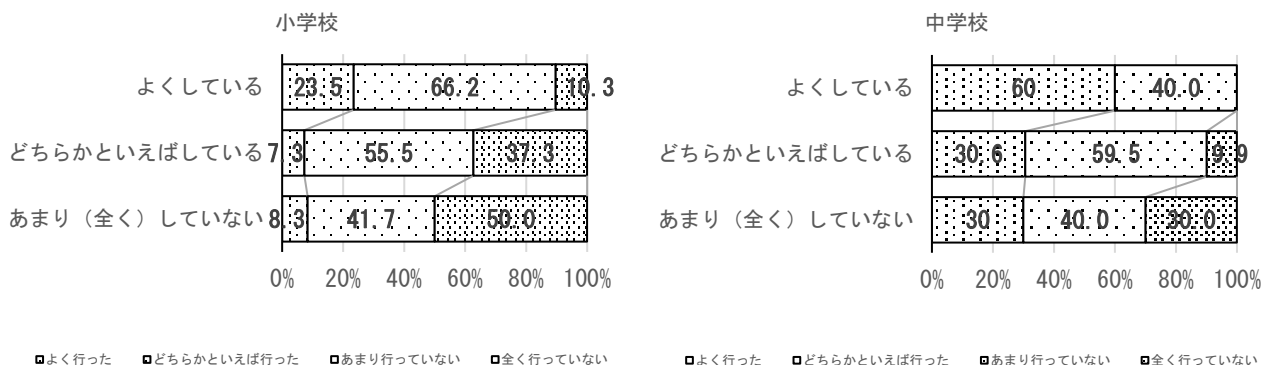


「学級活動」と「学級全員で挑戦する課題やテーマの付与」の関係

（学）学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っているか。



（学）学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか。



3 教科に関する質問紙調査の状況 国語

①小学校国語 児童の興味関心と小学校の指導状況

※H30 は質問項目なし。

- 国語に関する児童の興味・関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業の内容はよく分かる、～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ）は増加傾向にある。
○学校における指導状況は、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は平成 29 年度と同程度のであるが、肯定的に回答した学校において「よく行った」と回答した学校が増加している。
○「国語の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔児童の興味関心〕

国語の勉強は好きですか。

全国R1	26.5	37.7	24.3	11.5
長野県R1	26.7	40.1	24.2	9.1
長野県H29	25.3	37.9	25.8	10.8
長野県H28	22.7	37.2	27.2	12.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

〔小学校の指導状況〕

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。

全国R1	34.0	60.1	12.3	1.7
長野県R1	24.7	63.0	12.3	1.7
長野県H29	12.6	75.9	11.2	1.7
長野県H28	14.9	67.8	17.7	1.7

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

国語の勉強は大切だと思いますか。

全国R1	68.6	24.4	3.3	1.7
長野県R1	66.2	26.7	3.3	1.7
長野県H29	63.2	28.5	3.4	1.7
長野県H28	62.8	27.8	3.6	1.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

書く習慣を付ける授業を行いましたか。

全国R1	36.3	56.5	3.7	1.7
長野県R1	34.2	58.9	3.3	1.7
長野県H29	27.9	64.1	7.0	1.7
長野県H28	31.1	60.9	7.7	1.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか。

全国R1	41.2	43.7	12.0	1.7
長野県R1	39.8	46.2	11.7	1.7
長野県H29	37.3	46.5	13.8	1.7
長野県H28	33.7	47.5	15.0	1.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

様々な文章を読む習慣を付ける授業をしましたか。

全国R1	25.7	62.5	11.7	1.7
長野県R1	22.2	62.5	15.3	1.7
長野県H29	21.4	65.5	13.2	1.7
長野県H28	17.9	65.3	18.3	1.7

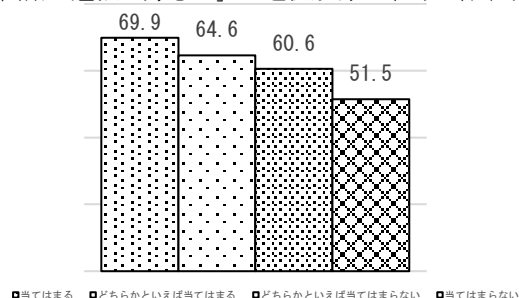
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

全国R1	64.2	27.0	5.4	1.7
長野県R1	62.9	28.7	5.4	1.7
長野県H29	54.3	35.1	8.1	1.7
長野県H28	57.1	32.8	8.1	1.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

②中学校国語 生徒の興味関心と学校の指導状況 ※H30 は質問項目なし。

- 国語に関する生徒の興味関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業の内容はよく分かる、～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ）は増加傾向にある。
- 学校における指導状況は、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は平成 29 年度と同程度であるが、肯定的に回答した学校において「よく行った」と回答した学校が減少している。とりわけ、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか」の項目は減少している。
- 「国語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔中学校国語 生徒の興味関心〕

国語の勉強は好きですか。

全国R1	24.6	37.1	26.4	11.9
長野県R1	22.3	38.7	28.8	10.1
長野県H29	21.2	39.4	28.8	10.6
長野県H28	19.4	38.3	31.2	10.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか。

全国R1	59.0	32.0	8.3	2.7
長野県R1	56.8	34.5	8.6	2.1
長野県H29	53.8	35.6	8.3	2.3
長野県H28	52.5	36.6	8.3	2.6

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか。

全国R1	28.4	49.2	17.8	4.6
長野県R1	28.2	51.0	17.2	3.6
長野県H29	26.6	51.1	18.0	4.3
長野県H28	24.1	50.1	20.9	4.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

全国R1	53.7	34.3	8.9	3.1
長野県R1	51.9	36.0	9.4	2.7
長野県H29	42.1	41.7	13.9	3.3
長野県H28	42.8	41.6	12.4	3.2

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

〔学校の指導状況〕

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。

全国R1	29.3	59.7	10.7	1.3
長野県R1	23.3	59.8	16.9	1.0
長野県H29	26.9	62.4	10.9	1.8
長野県H28	21.2	59.8	19.0	1.0

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

書く習慣を付ける授業を行いましたか。

全国R1	44.1	51.2	4.3	1.4
長野県R1	40.2	54.5	4.3	1.0
長野県H29	45.2	48.4	5.8	1.6
長野県H28	38.1	56.6	4.3	1.0

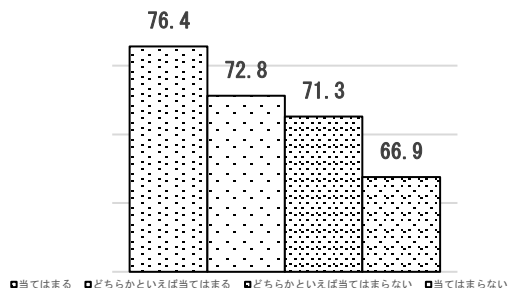
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

様々な文章を読む習慣を付ける授業をしましたか。

全国R1	31.5	58.4	9.9	1.2
長野県R1	27.0	59.3	13.8	1.9
長野県H29	30.6	57.0	12.4	1.9
長野県H28	26.5	60.3	13.3	1.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率



□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

4 教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学

①小学校算数 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 算数に関する児童の興味・関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ）は増加傾向にある。
- 学校における指導状況は、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は平成 30 年度と同程度であるが、肯定的に回答した学校の中で「よく行った」と回答した学校が増加している。
- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔小学校算数 児童の興味関心〕

算数の勉強は好きですか。

全国R1	40.6	28.0	18.7	12.7
長野県R1	37.4	31.9	20.1	10.6
長野県H30	30.1	32.2	24.6	13.0
長野県H29	35	29.9	21.8	13.1

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の勉強は大切だと思いますか。

全国R1	75.6	18.1	4.3
長野県R1	73.5	20.1	4.4
長野県H30	68.8	28.1	5.8
長野県H29	70.6	21.3	5.4

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業の内容はよく分かりますか。

全国R1	49.3	34.2	12.4
長野県R1	45.0	37.8	13.5
長野県H30	38.4	45.3	13.1
長野県H29	43.9	36.2	14.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

全国R1	72.3	20.2	5.4
長野県R1	71.6	21.2	5.4
長野県H30	64.1	26.8	6.4
長野県H29	65.0	24.4	7.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

〔小学校の指導状況〕

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。

全国R1	16.5	65.9	17.4
長野県R1	13.7	64.1	22.2
長野県H30	10.3	59.9	28.7
長野県H29	8.8	54.8	36.2

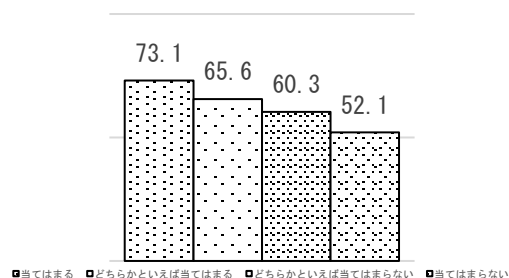
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。

全国R1	60.6	37.1	2.2
長野県R1	44.4	48.5	7.1
長野県H30	41.4	53.3	4.7
長野県H29	49.6	43.6	6.6

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「算数の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

②中学校数学 生徒の興味関心と中学校の指導状況

- 数学に関する生徒の興味・関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業の内容はよく分かる、～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ）は増加傾向にある。
- 学校における指導状況は、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は平成 30 年度と同程度であるが、肯定的に回答した学校において「よく行った」と回答した学校が増加している。
- 「数学の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔中学校数学 生徒の興味・関心〕

数学の勉強は好きですか。

全国R1	30.7	27.2	23.9	18.1
長野県R1	29.2	28.5	26.3	16.0
長野県H30	25.3	29.9	27.6	16.4
長野県H29	27.6	28.7	26.6	17.0

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の勉強は大切だと思いますか。

全国R1	49.8	34.4	11.2	
長野県R1	48.4	36.7	11.0	
長野県H30	43.8	40.2	12.1	
長野県H29	46.3	36.3	12.8	

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業の内容はよく分かりますか。

全国R1	34.8	39.1	18.6	7.3
長野県R1	34.7	40.9	18.2	6
長野県H30	29.3	44.5	20.4	5.7
長野県H29	31.4	40.6	20.5	7.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

全国R1	72.3	20.2	7.4	
長野県R1	66.8	23.6	7.1	
長野県H30	65.0	24.4	7.7	
長野県H29	64.1	26.8	6.1	

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

〔中学校の指導状況〕

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。

全国R1	15.2	62.9	21.6	
長野県R1	21.2	59.8	19.0	
長野県H30	14.3	67.2	18.0	
長野県H29	15.1	65.1	19.9	

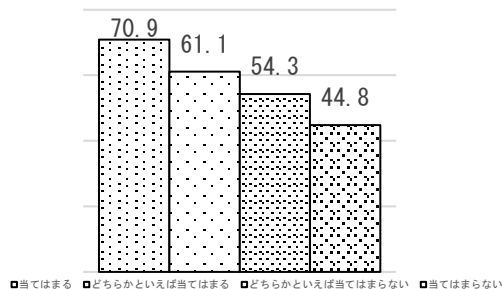
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。

全国R1	57.3	39.3	3.2	
長野県R1	49.2	45.0	5.0	
長野県H30	41.3	52.9	5.3	
長野県H29	45.2	50.0	4.8	

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

「数学の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



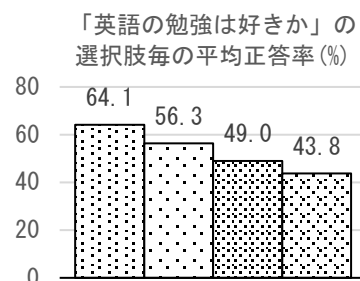
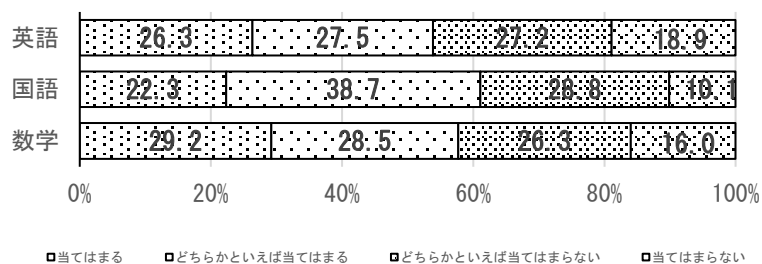
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

5 教科に関する質問紙調査の状況 英語

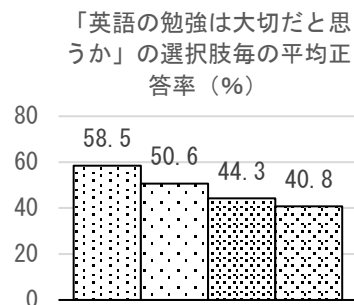
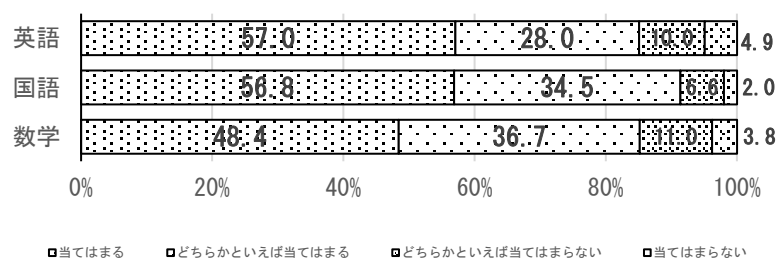
① 生徒の興味関心等

- 「英語の勉強は好きか」、「英語の授業はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は5割を超えているが、国語や数学と比べてやや少ない傾向が見られる。
- 「英語の勉強は大切だと思うか」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」との質問に肯定的に回答した生徒の割合はどちらも8割を超えている。
- 興味関心、授業の理解度に関する質問に肯定的に回答した生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。
- 「生徒の学校外での日常的な英語の使用機会（地域の人や海外の人と話す、手紙やメールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通う等）があるか」との質問に肯定的に回答した生徒の割合は3割を超えている。この質問に肯定的に回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ってみたいか」との質問に肯定的に回答した割合は、児童生徒ともに6割を超えている。

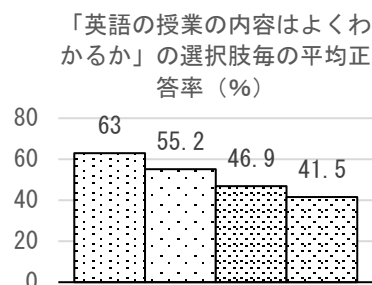
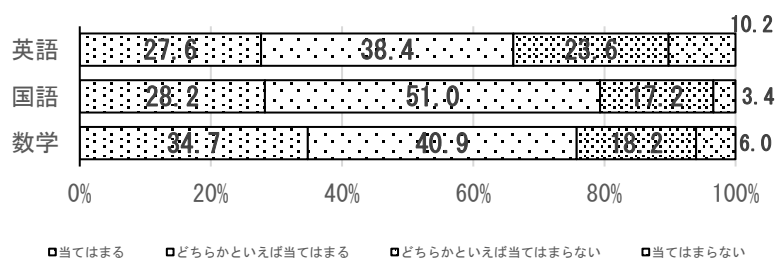
【生徒質問紙】英語の勉強は好きですか。



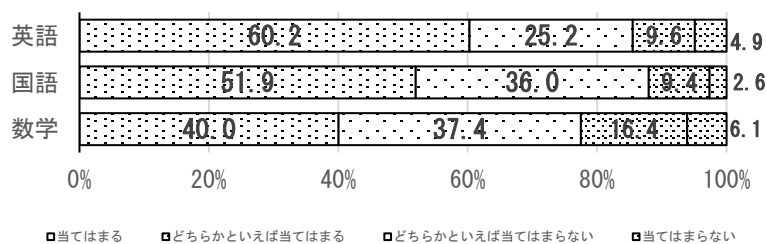
【生徒質問紙】英語の授業は大切だと思いますか。



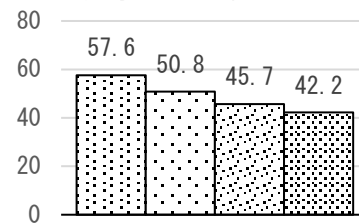
【生徒質問紙】英語の授業の内容はよく分かりますか。



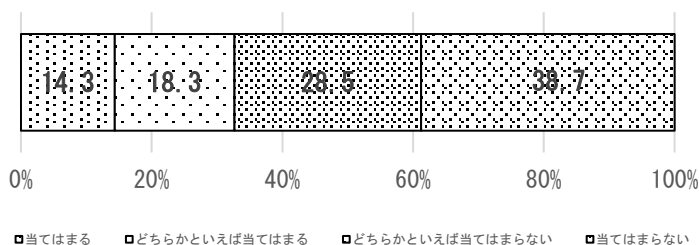
【生徒質問紙】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



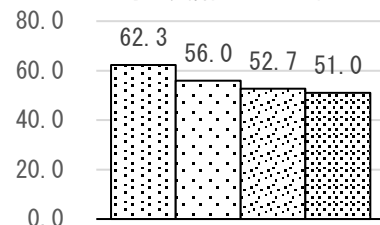
「英語は将来、社会に出たときに役に立つか」の選択肢毎の平均正答率 (%)



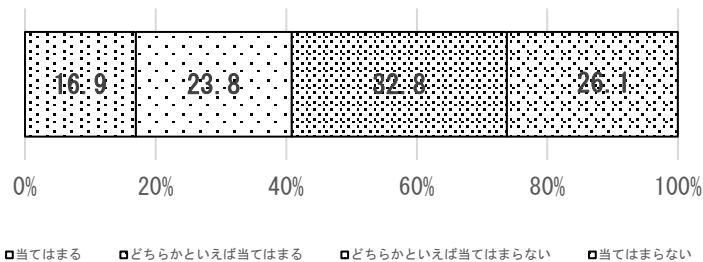
【生徒質問紙】あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか。



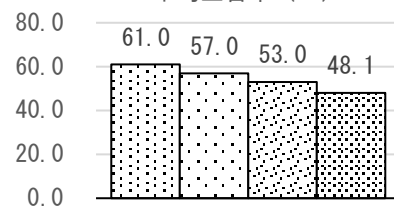
「日常的に英語を使う機会が十分になるか」の選択肢毎の英語の平均正答率



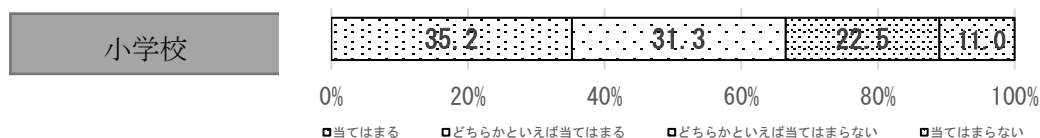
【生徒質問紙】あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。



「将来、英語を使うような生活をしたり職業に就きたいと思うか」の選択肢毎の平均正答率 (%)

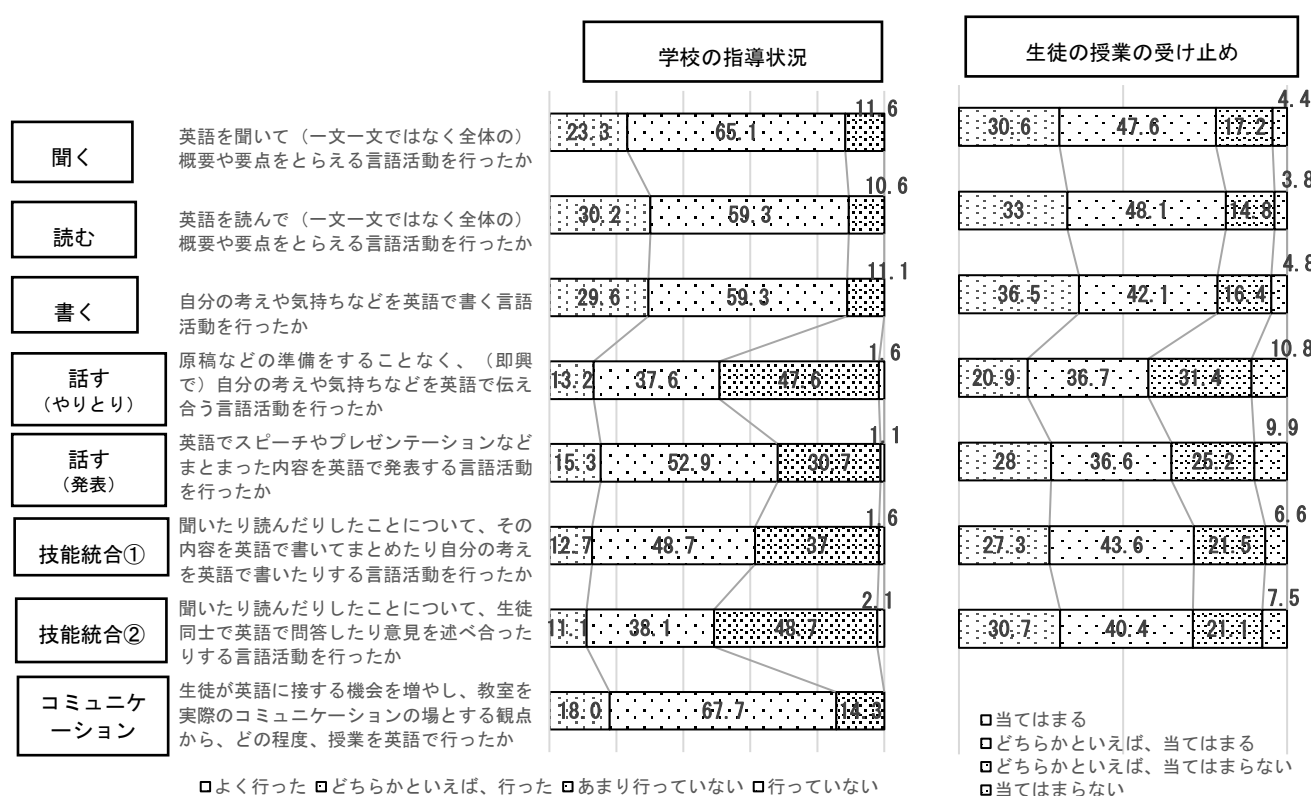


【児童生徒質問紙】外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。

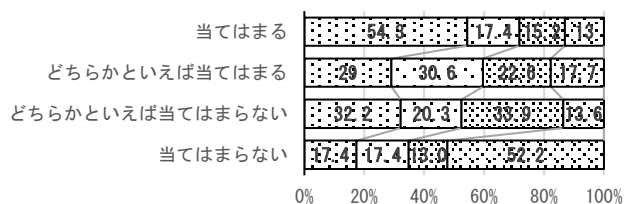
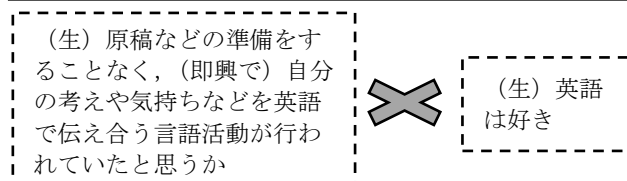


② 学校における指導状況と生徒の授業の受け止め

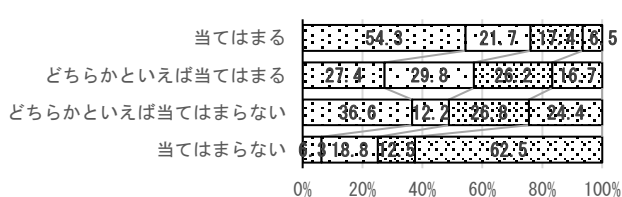
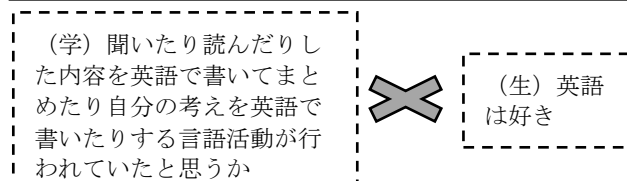
- 英語の領域別の指導状況を見ると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に関する言語活動について肯定的な回答をした学校の割合はいずれも9割近い。「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」については、肯定的な回答をした学校の割合が5割を上回っている。
- 「聞いたり読んだりしたことについて英語で書く活動」について、肯定的な回答をした学校の割合が6割であるのに対して、「聞いたり読んだりしたことについて英語で話す活動」について、肯定的な回答をした学校の割合は5割を下回っている。
- 「英語の授業において、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場面とする観点からどの程度授業を英語で行ったか」との質問に肯定的な回答した学校の割合は8割を超えている。
- 即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動や、聞いたり読んだりした内容について英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動を行っている学校と行っていない学校では、「英語の勉強が好き」という生徒の割合に2倍以上の差が見られる。



「話すこと（即興）」と「英語の勉強が好き」の関係



「技能統合①」と「英語の勉強が好き」の関係

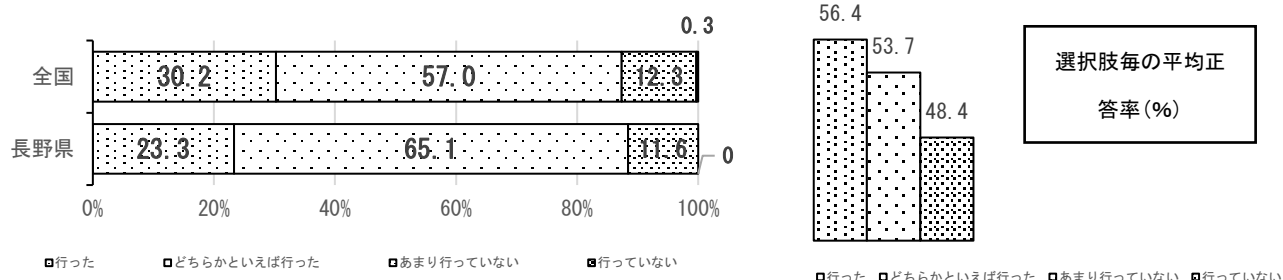


③ 学校における指導状況（領域別）

- 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと（やり取り）・（発表）」の領域別に見ると、すべての領域において、それぞれに関する言語活動を行っている学校の方が当該領域の平均正答率が高い傾向が見られ、学校における指導が影響していることが伺える。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で意見を述べ合う」あるいは「その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする」という技能統合の言語活動についても、こうした言語活動を行っている学校の方が当該領域の平均正答率が高い傾向が見られる。

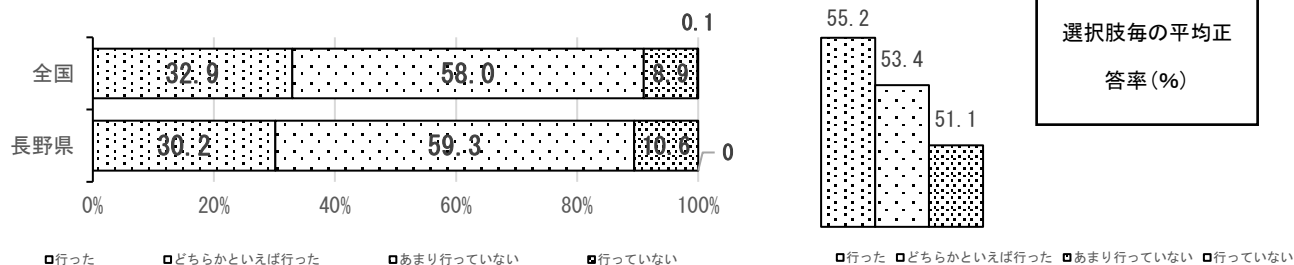
〔聞くこと〕

【学校質問紙】英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか。



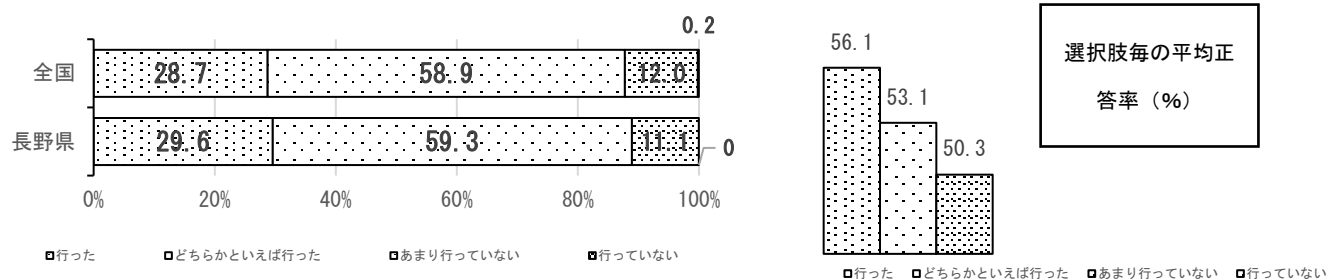
〔読むこと〕

【学校質問紙】英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか。



〔書くこと〕

【学校質問紙】自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか。

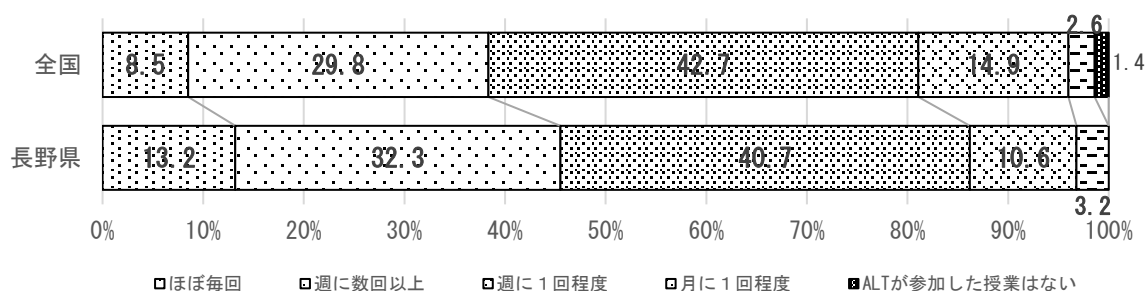


④ 学校における指導状況（ALT（外国語指導助手）との連携）

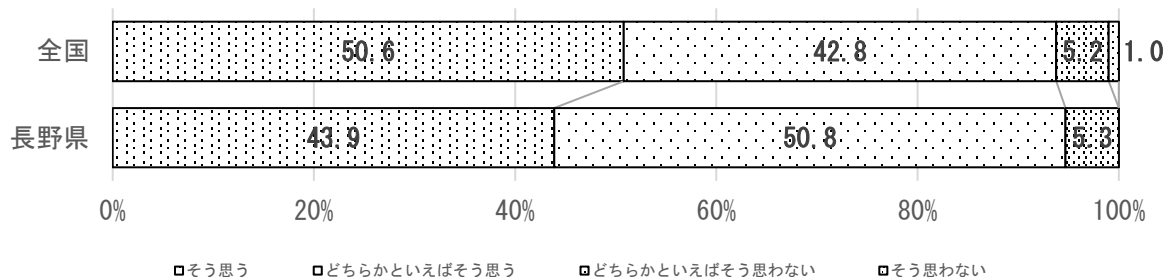
- 年間の授業のうちのALTを活用した授業の頻度については、4割程度の学校が「ほぼ毎日」「週に数回以上」だが、4割程度が「週に1回程度」である。また、「英語担当教師とALTとの間で、授業のねらいや生徒の実態等について共通認識をもって協力して授業を行っているか」との質問に肯定的に回答した学校の割合は、9割を超えている。
- お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの小学校との連携については、肯定的に回答した学校が5割程度である。

〔ALT（外国語指導助手）〕

【学校質問紙】年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか。

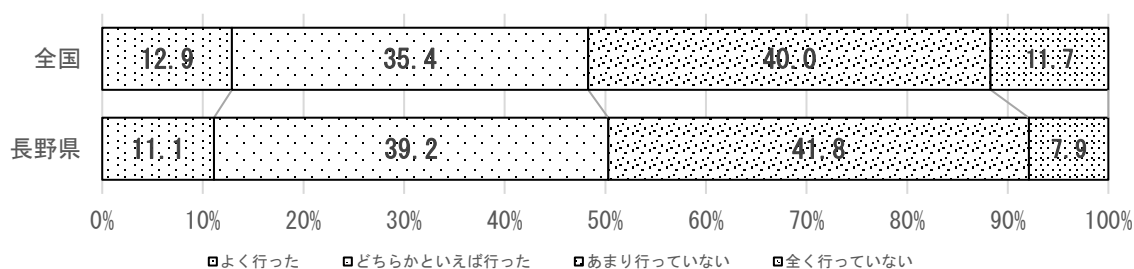


【学校質問紙】英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか。



〔小学校と中学校の連携〕

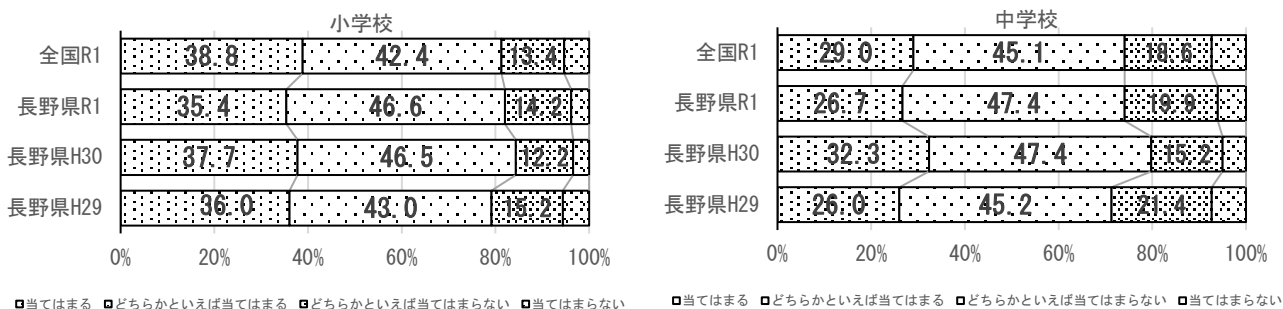
【学校質問紙】英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか。



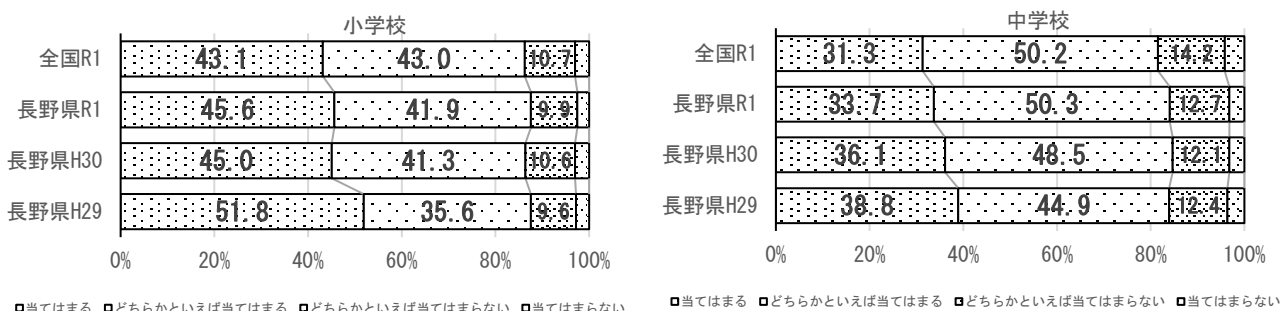
6 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「自分にはよいところがあると思うか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、児童が8割、生徒が7割を超えている。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」との質問は、児童生徒ともに、昨年度と同様に8割を超えている。
- 「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行ったか」との質問に肯定的に回答した小・中学校の割合は、昨年度と同様に9割を超えている。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解できなかったところについて、分かるまで教えてくれるか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は年々増加しており、今年度は、児童は9割、生徒は8割を超えている。

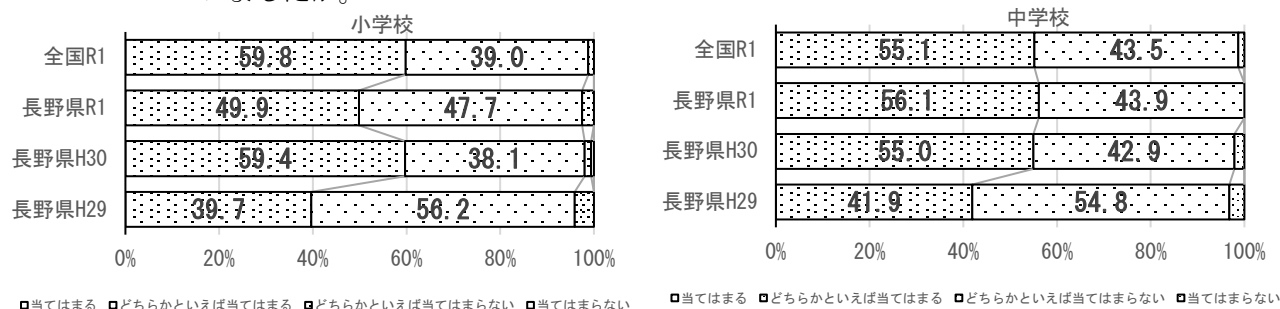
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか。



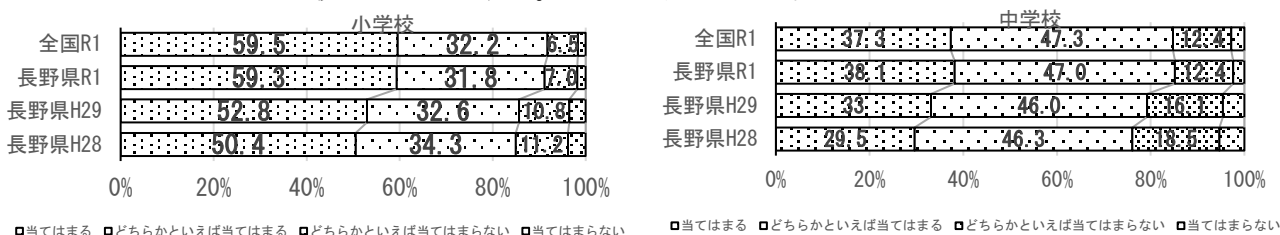
【児童生徒質問紙】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



【学校質問紙】児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

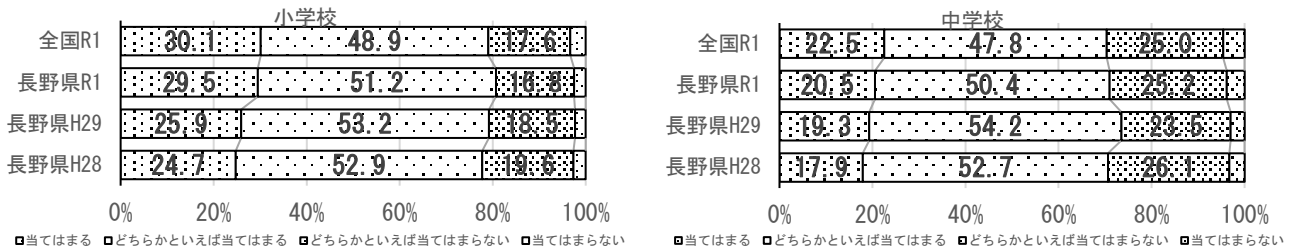


【児童生徒質問紙】先生は、授業やテストで間違えたところや理解できなかったところについて分かるまで教えてくれますか。 ※H30は質問項目なし。

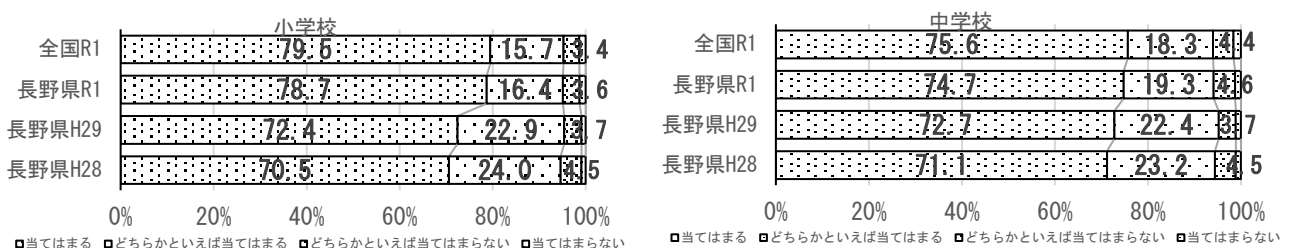


- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しているか」（挑戦心）、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」（達成感）ともに、平成 28 年度と比べると最も肯定的に回答した児童生徒の割合は増加している。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとしたり、国語、算数、英語等の学習においても、主体的な姿勢をとろうとしたりする傾向がある。

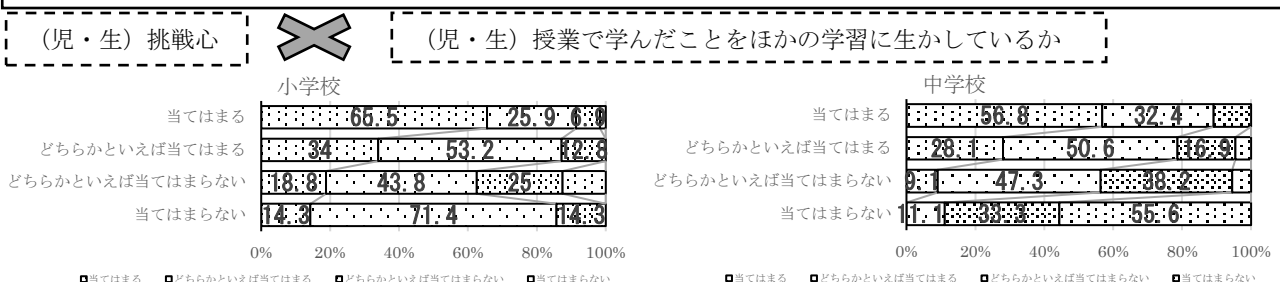
【児童生徒質問紙】 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。 ※H30 は質問項目なし。



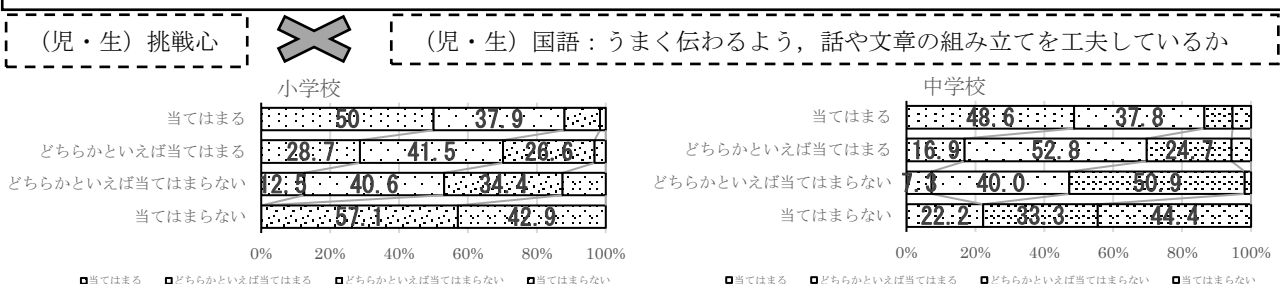
【児童生徒質問紙】 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか。 ※H30 は質問項目なし。



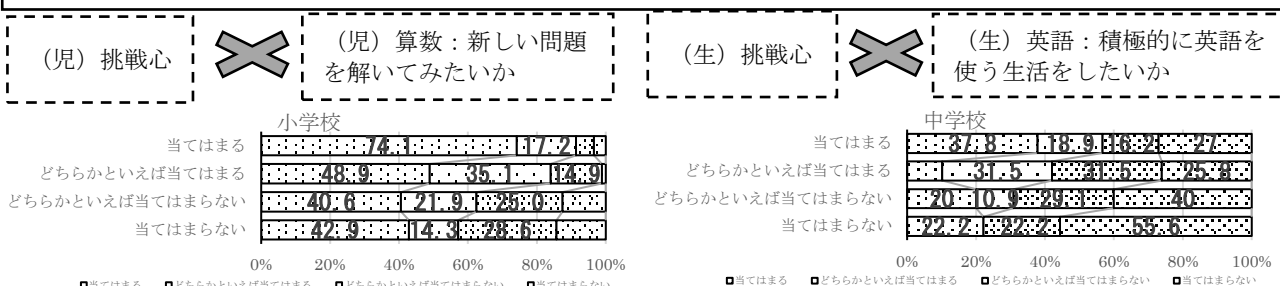
①「挑戦心」と「授業で学んだことをほかの学習に生かしているか」の関係



②「挑戦心」と「国語：うまく伝わるよう、話や文章の組み立てを工夫しているか」の関係



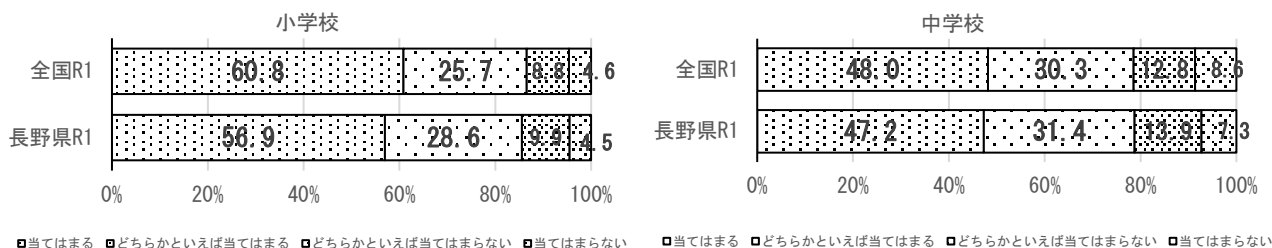
③「挑戦心」と「算数：新しい問題を解いてみたいか」「英語：積極的に英語を使う生活をしたか」の関係



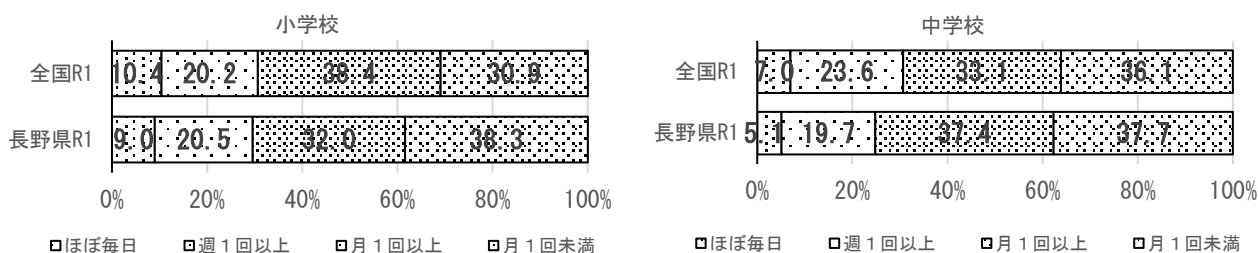
7 ICTを活用した学習状況

- 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか」との質問に肯定的に回答した割合は、児童が8割を超え、生徒が8割程度である。コンピュータなどのICTを活用した授業に対する児童生徒の興味・関心は高いことが伺える。
- 「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度活用したか」との質問に「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は1割以下であり、7割程度が「月1回以上」「月1回未満」という活用状況である。
- 授業でのコンピュータなどのICTの使用頻度が低い児童生徒の8割程度が、コンピュータなどのICTをもっと活用したいと回答している。
- 「教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業の1クラスあたりの頻度」は、2割程度の学校で「月1回以上」「月1回未満」となっている。

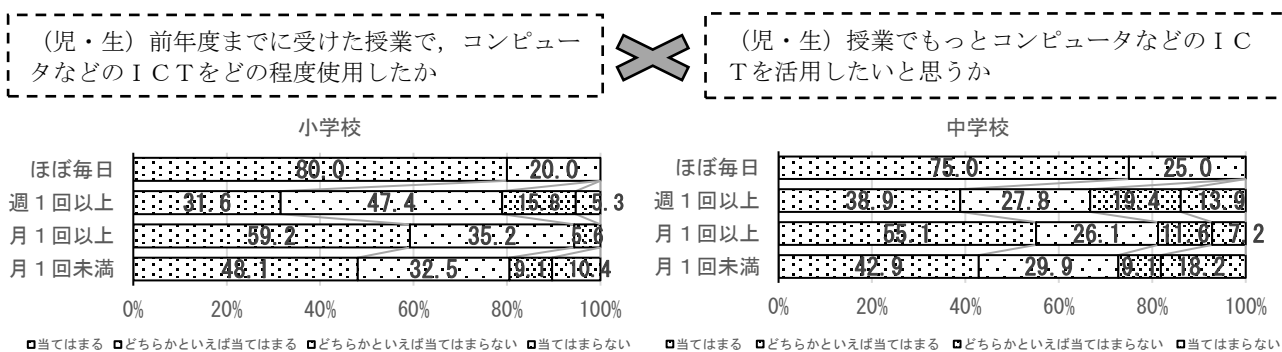
【児童生徒質問紙】授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。



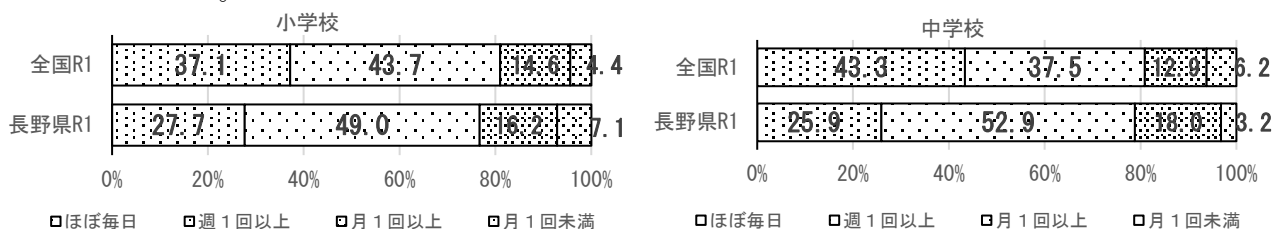
【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。



「コンピュータなどのICTの使用頻度」と「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う」の関係



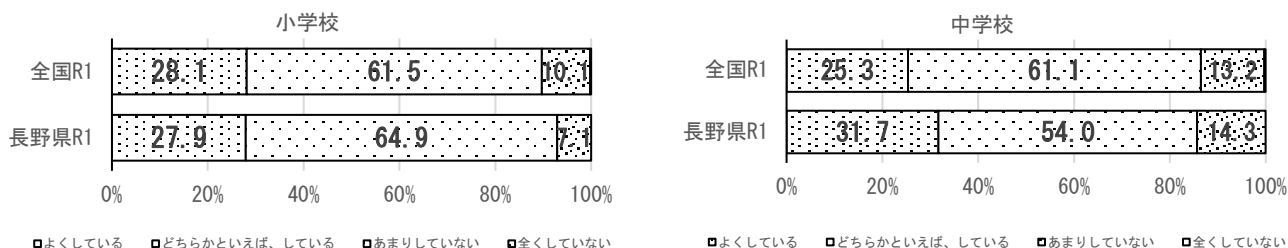
【学校質問紙】教員が大型提示装置などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



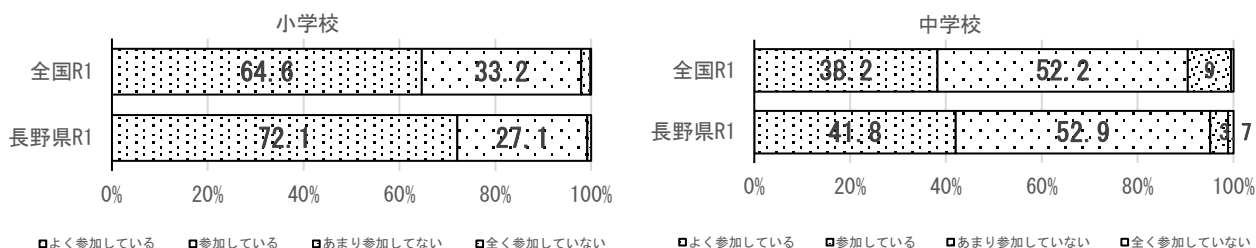
8 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は、小学校では9割を超え、全国平均を上回っている。
- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小中学校の割合は9割を超え、全国平均を大きく上回っている。
- 「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか」との質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小中学校ともに9割を超えている。

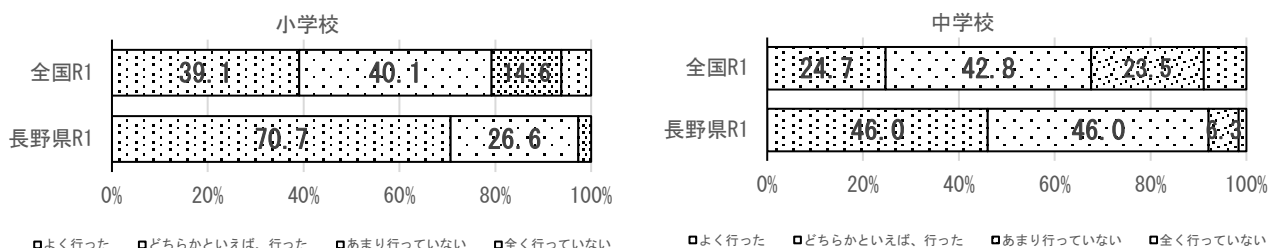
【学校質問紙】教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。



【学校質問紙】保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加していますか。



【学校質問紙】地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。



【学校質問紙】保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。

